

資料紹介

国士館史関係資料の翻刻ならびに補注 第一三巻

国士館史資料室



凡例

一 ここには、国士館史編纂のために調査収集した資料のうちから、翻刻・校訂と補注が終了し、重要度が高いものを順次紹介する。

二 資料には出典を略記し、国士館史資料室収蔵の資料番号を適宜に付した。また必要に応じて解説を付した。

三 資料名（歌名）に別称があるものは、資料名の下に（～）で別称を記した。なお各区分中の資料（歌）の並びは順序不同とした。

四 資料中（歌詞）の表記は、原則として原資料の通りとした。但し、補足した場合には（ ）で注記した。

五 資料中（歌詞）の誤記については（ ）で訂正、あるいは（ママ）と傍注した。また、後筆は該当文字の部分に「」を付して傍らに（後筆）と表記した。

六 原則として資料（歌詞）の初出箇所には、原資料表記の有無に関わらず、ふりがな（読み）を傍らに補った。資料中（歌詞）に誤記等がある場合には、傍注した（ ）内に正しいと思われるふりがなを追記した。

七 原資料の一部を省略した場合には、該当部分に（前略）・（中略）・（後略）等を明記した。

八 原則として原資料の体裁を保つよう努めたが、改行等については、利用の便に配慮して一部を修正した。

九 漢字は原則として常用漢字に改めた。

一〇 資料の翻刻・校訂は、国士館史資料室収蔵の原本によった。

一一 資料中に、現代においては差別的表現あるいは個人情報に関わる用語が存在する場合は、歴史的語彙としてそのまま表記した。

国士館関係歌集

I 国士館歌集

1、大民団歌	28
2、国士館館歌	30
3、国士館学徒吟〈寮歌・逍遥歌・隊歌〉	34
4、学生歌	39
5、第一応援歌（人混沌に迷う世に…）	40
6、第二応援歌（並木照る白銀に…）	42
7、国士館応援歌 第一（春秋四十有余年…）	43
8、応援歌（我々国士館の意気富みに…）	44
9、応援歌（富嶽風吹き荒れて…）	45
10、国士館中学校校歌	46
11、至徳学園校歌	47
12、高校応援部部歌	48
13、剣道部歌（富嶽風吹き荒れて…）	49
↓ 9、応援歌②（富嶽風吹き荒れて…）参照	49
14、剣道部部歌（武蔵高原月冴えて…）	49
15、柔道部歌（戦雲暗くたなびきて…）	50
16、柔道部歌（人混沌に迷う世に…）	51
↓ 5、第一応援歌参照	51

II 関連学校歌

17、言道部部歌	51
18、体操部の歌	53
19、ラグビー部の歌「燃ゆる闘魂」	53
20、ラグビー部の歌「風を呼ぶラグーメン」	54
21、日本拳法部部歌	55
22、空手道部々歌	56
23、合気道部々歌	57
24、国防部々歌	58
25、国士の雄叫び（行進曲）	59
1、アマゾンア産業研究所・同実業練習所の歌	59
2、門出の歌	61
3、満洲鏡泊学園校歌	63
4、鏡泊学園寮歌	64
5、鏡泊学園数え歌	65
6、鏡泊音頭	67
7、鏡泊湖守備隊歌	68
III 学生歌集	69
1、国士館数え歌	69
（一つとせ一日二日はびんたで暮す…）	69

2、	国士館五万節（国士館出てから十余年…）	70
3、	寮生哀歌〈国士館ブルース〉 （身から出ましたさび故に…）	71
4、	一回生ブルース（東京名物数あれど…）	76
5、	水泳部ブルース （知らぬこととは云いながら…）	77
6、	狼の歌〈風雲児〉（男一匹やるだけやれば…）	78
7、	国士館豪気節 （一つとせ 人に知られた国士館…）	79
8、	花の御江戸の国士館 （花の御江戸に立つ時は…）	80
9、	ツンドカドカ （渋谷の国士か国士の渋谷か…）	81
10、	国士大恋歌（酒に対して まさに唄うべし…）	82
11、	突撃音頭（皆さんく選手の後で…）	83
12、	国士館小唄〈国士館節〉 （春が来たかよ国士のお庭に…）	83
13、	国士館節〈士館節・国士館数え歌・応援団節〉 （此処は武蔵か世田谷町か…）	84
14、	国士館節〈士館節〉	84

15、	国士館節〈士館節〉（男度胸はノイエ…） （士館よいとこ誰いうた…）	86
16、	国士館節 （麻と乱れる天下治め コリヤく…）	87
17、	国士館デカンショ	88
18、	国士館同志会デカンショ・ オリンピックデカンショ	90
IV	愛唱歌	92
1、	蒙古放浪の歌（心猛くも鬼神ならぬ…）	93
2、	人を恋うる歌〈支那浪人の歌〉 （妻をめとらば才たけて…）	93
3、	男度胸〈流砂の護り〉（男度胸は鋼の味よ…）	94
4、	男なら（男なら男なら…）	95
5、	桜花（咲いた桜が男なら…）	96
6、	青年日本の歌〈昭和維新の歌〉 （汨羅の淵に波騒ぎ…）	96
7、	馬賊の唄（僕も行くから君も行け…）	97
8、	その他一覧	99
V	私製歌	100
1、	母校を懐う歌	101

	VI
2、その他一覧	102
1、関連人物	102
(1) 石川太郎	102
(2) 宗鳳悦	102
2、「歌集」関連の発行物	103

国士館関係歌集

この翻刻・補注は、国士館の歴史において成立した「歌」に関する資料を収載し、「国士館関係歌集」と題した。これらの歌は、時代に応じて学園組織が生んだもの、あるいは学生・生徒の手により生まれたものであり、学生・生徒の間で歌われ、現在に至るといふ性格を有する。このため文字資料として現在確認できる関係歌は一部であり、さらにその多くは楽譜も無く音声資料が残るものもわずかである。一九六〇～一九八〇年代においては、特に寮生活のなかであるいは部活動（特に武道系クラブ）において、当時の学生生活の一端を示す様々な「歌」が生まれている。歌の用例を示すと、入寮直後あるいは入部直後に上級生から口伝で様々な「歌」を記憶するよう指導され、ある集まりの席上であるいは日々の部活動の終りにといった様々な場面で歌われた。つまり学生生活における集団行動の一環として歌われるものであったといえる。なおこれらの「歌」のなかには吟（いわゆる詩吟）と歌を組み合わせて歌うものも含まれる。

本関係歌集では、国士館の諸学校における活動（部活

動を含む）のなかで成立した歌を「Ⅰ. 国士館歌集」、国士館の関係者が設置した組織・機関等で歌われたものを「Ⅱ. 関連学校歌」、学生・生徒の手により当時の流行歌等の一部改めるなどして歌われたものを「Ⅲ. 学生歌集」、広く世間一般に歌われていた歌のなかで当時の学生・生徒が愛唱したものを「Ⅳ. 愛唱歌」と位置づけ、各歌を区分して掲載した。

翻刻・補注にあたっては、原則として資料典拠を重視し、メモなどを含む文字資料として現在確認できる歌を対象に掲載した。但し前記の用例に示した通り、口伝のみで歌い継がれた関連歌の存在も十分に推測されることから、ここに掲載した関係歌がすべてを網羅したものではないことを付記する。

この「国士館関係歌集」は、国士館史資料室の熊本好宏・畠山典子が編集・執筆を担当した。翻刻・補注にあたっては、一九七〇～一九八〇年頃に本学に在籍した卒業生の協力を得た。特に各歌詞の読み（歌い方）や解説には、鶴見保・宮川英之・古畑譲・鈴木篤・福原一成・菊地眞行その他関係諸氏（敬称略）の知見を頂いた（二〇二二年聞き取り）。

I 国士館歌集

国士館歌をはじめとする学内組織において成立した歌を収載した。なお主に一九六〇年代以降に成立する各部活動の歌に関連して、硬式野球部や少林寺拳法部など部歌のない部も存在するほか、峠道協会の歌「峠道一筋」を歌う峠道部のような部もあり、すべての部活動（クラブ）が独自の部歌を有するものではないことを付記する。

1、大民団歌

成立年代…一九一七年／作詞…柴田徳次郎／作曲…東儀鉄笛

【解題】大民団歌は、国士館の母体となる青年大民団の歌。歌詞の淵源は、一九一七年五月、柴田徳次郎らが大民同人で夭折した本告辰二（浩々散土）の墓参で佐賀県須古村（現杵島郡）を訪ねた折に柴田が作った詞にある（『偲友行』『大民』二巻五号）。「大民団歌」としては、歌詞のみ『大民』二巻八号（一九一七年八月一日）で初出した後、翌九号（一九一七年九月一日）で楽譜と共に掲載された。後年、新聞『大民』一号（一九三八年四月一五

日）に掲載の大民団歌では、歌詞中の「白禍」を「赤禍（社会主義・共産主義を示す）」へと変更している。戦後は、歌詞中の「大民団」を「国士団」「健児団」に置き換えられ、それぞれ「国士団歌」及び「健児団の歌」として変遷した。

①『大民』二巻九号（青年大民団、一九一七年九月一日）写真1

大民（だいみん）国（こく）歌（か）

東儀鉄笛（とうぎてつてき） 作曲

一、天（てん）の靈（れい）示（し）と世（よ）の期待（きたい）
乱麻（らんま）の四海（しかい）を平定（へいじよう）し
国（くに）と人（ひと）とを救（すく）はんと
氣負（きおい）立（た）つたる大民（だいみん）国（こく）

二、白禍（はくか）の勢（いきおい）滔（たう）々（とう）と
見（み）よ友垣（ともがき）の民草（たみくさ）は
色香（いろか）あせ果（は）ちからう
力（ちから）失（う）せ

大 民 国 歌

東儀鉄笛作曲

レ イ シ ャ ャ ノ キ サ イ
ハ ク ク ヲ の い き ほ い と う と う
ウ リ ワ フ ル ナ ガ レ ド ウ ボ ウ ヨ

ウ ャ マ ノ シ カ イ ヤ ヘ イ ジ セ ャ
ミ ヨ ト モ が き の た み く き
セ イ ボ ノ チ シ ホ ミ ヨ シ ノ

タ ニ ト ヒ ト ト マ ス ク ハ ン ト
い か か あ せ は て ち か ら う セ
ハ ナ ト 世 キ ザ ル ニ ク ト の

キ オ リ タ ナ タ ル デ イ ミ シ ン
け つ たい つ き て ぬ シ ジ ア
カ ミ ノ チ カ ワ ノ

一、天の靈示と世の期待
乱麻の四海を平定し
国と人とを救はん
氣負ひたる大民
二、白禍の勢迫りと
見よ我祖の屈辱は
色香あせ果て力失せ
血涙尽きて無辜に泣く
三、憂ふる勿れ同胞よ
正義の血汐三吉野の
花と咲き出る日東に
神の力の男児あり
神の力の男児あり

(『大民』二卷九号、一九一七年九月)日

写真1 大民国歌
(『大民』2卷9号、1917年9月、
『国士館百年史 史料編上』28頁より転載)

血涙^{けつるみ}尽きて無辜^{むこ}に泣く

三、憂^{うれ}ふる勿^{なか}れ同胞^{どうほう}よ

正義^{せいぎ}の血汐^{ちしお}三吉野^{みよしの}の

花^{はな}と咲^さき出^いる日東^{にっとう}に

神^{かみ}の力^{ちから}の男児^{だんじ}あり

神^{かみ}の力^{ちから}の男児^{だんじ}あり

【注】白禍^{はくか}(はくか) … 白人・西欧列強の植民地政

策^{さく}を示唆^{しそく}する。／無辜^{むこ}… 罪がないこと。／三

吉野(みよしの) … 「吉野」に美称の接頭語「み」
を付したもので、和歌で用いられる吉野の桜
の意味。

② 国士館教育関係資料一括 (一九六〇年代) 「資料番号
1701」

一九六〇年代頃の館長訓話などで学生に配布された一
括資料の一紙。楽譜なし。作成年などの詳細は不明。な
お、この一括資料以外にも同歌詞で「健児団の歌 柴田
徳次郎作」(一九六〇年頃、ペン書・筆不詳「資料番号
2029」)も存在し、それには「国士団」が「健児団」に、
「大智大慈の利剣あり」が「大和大慈の利剣あり」と記
される。

国士団歌^{こくしだんか}

天の靈示と世の期待
乱麻の四海を平定し
国と人とを救わんと
氣負ひ起ちたる国士団

核爆弾の惨害を

憤る世界の民草は

妖魔降さん術も無み

血涙つきて無告に泣く

憂うる勿れ同胞よ

正義の血潮み吉野の

桜と匂う日東に

大智大慈の利剣あり

大智大慈の利剣あり

2、国士館館歌

成立年代…一九二〇年／作詞…柴田徳次郎／作曲…東儀鉄笛／編曲…石川太郎

【解説】東儀鉄笛作曲の「大民団歌」に、柴田徳次郎が歌詞を付して成立した。国士館館歌は、『大民』六卷三号（一九二〇年三月一日）の初出で、当初の歌詞は一番・二番の構成であったが、一九二二年頃には一番が現在につながる「館歌」へ、また二番は「学徒吟〈寮歌〉」へと変転していった。『第一五回商業学校卒業記念アルバ

ム』（一九四二年十二月）が作られた一九四二年頃から歌詞「ここ武蔵野の一義塾」が「ここ武蔵野の国士館」へと変わり、現在と同じ「館歌」の歌詞となる。国士館の諸学校は、戦前期に成立した独自の中学校校歌および戦後の至徳学園期を除いて、この「館歌」を校歌とする。曲は、一九六〇年代に職員で大学吹奏楽部長の石川太郎により編曲され、現在に至る。なお『国士館大学歌集（カセットテープ版）』（国士館大学同窓会、一九八五年頃）など大学同窓会の発行物では、現行の楽譜（写真2）とは音階が相違する楽譜が記されている。

①『国士館大学手帳二〇二二』（国士館大学学生部学生・

厚生課、二〇二二年四月）写真2

国士館館歌

一、霧わけ昇る陽を仰ぎ

梢に高き月を浴び

皇国に殉す大丈夫の

ここ武蔵野の国士館

国士館館歌

作詞 徳次郎 宮部
 作曲 田 鉄 太
 編曲 東 石 川 太 郎



一、霧分けの陽を仰ぎ
 朝に高き月を浴び
 皇国に海王太夫の
 こと武蔵野の国を
 二、松陰の祠に節を磨し
 豪徳の鐘気を澄す
 朝な夕なにつく呼吸は
 富嶽嵐の天の風
 三、区々現身の粗薪に
 大覚の火を打ち点し
 三世十方焼き尽す
 至心の焰あふらばや

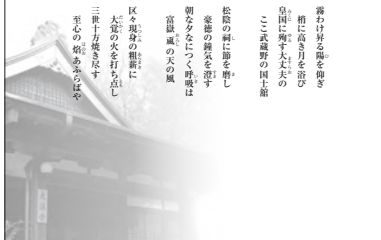


写真2 国士館々歌
 (『国士館大学手帳 2022』2022年4月)

二、松陰の祠に節を磨し

豪徳の鐘気を澄す

朝な夕なにつく呼吸は

富嶽嵐の天の風

三、区々現身の粗薪に

大覚の火を打ち点し

三世十方焼き尽す

至心の焰あふらばや

【注】区々：ちつぽけなの意味。／大覚（だいかく）

：大きな悟り。／三世十方：現在・過去・未

来（三世）と四方・四隅・上下（十方）のこと、

つまり無限の意。／至心：誠の心、つまり悟

りを得た心身の意味。

②『大民』六卷三号（大民団、一九二〇年三月一日） 写

真3

歌詞のみの掲載で楽譜はない。歌詞の一番「太夫山（大
 夫山）」は、松陰神社周辺の古地名で、同地が毛利藩主
 毛利大膳大夫の所領であったことに由来する。読みは本
 来「だいぶやま」であるが、「たゆうやま」「たゆうがや
 ま」の読みが記された別歌もある。なお、歌詞二番は後
 に「学徒吟（寮歌）」として分離独立する（3、学徒吟
 参照）。

国士館々歌

一

霧分けのぼる陽を仰ぎ

梢に高き月をあび

此処武蔵野の一義塾

澄心の鐘豪徳寺

磨節のほこら太夫山

朝な夕なにつく息は

富岳下しの天の風

区々現身の粗まきに

大覺の火打ともし

三世十方焼きつくれ

至心の紅ゑんあふらばや

至心の紅ゑんあふらばや

二

七寸有余のほうばの下駄に

六尺有余の身をのせて

肩できり行く小夜嵐

高底緩急縷々として

意気を吐露する朗吟は

岩囀む波か獅子吼か

乾坤為めに震かいし

国士館々歌

一

霧分けのぼる隅を仰ぎ
梢に高き月をあび

此處武蔵野の一義塾
澄心の鐘豪徳寺

磨節のほこら太夫山
朝な夕なにつく息は

富岳下しの天の風
区々現身の粗まきに

大覺の火打ともし
三世十方焼きつくれ

至心の紅ゑんあふらばや
至心の紅ゑんあふらばや

二

七寸有余のほうばの下駄に
六尺有余の身をのせて

肩できり行く小夜嵐
高底緩急縷々として

意気を吐露する朗吟は
岩囀む波か獅子吼か

乾坤為めに震かいし
意気を吐露する朗吟は

岩囀む波か獅子吼か
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

意気を吐露する朗吟は
意気を吐露する朗吟は

【 88 】

写真3 国士館々歌
（『大民』6巻3号、1920年3月）

寒月為めに激すらむ
嗚呼満天下の同胞よ
憂ふる勿れ世の腐敗
意を安んぜよ身の不如意
吾人が眼黒からば
吾人が眼黒からば

③『大民』七巻七号（大民俱樂部、一九二二年七月）

『大民』七巻七号から、②（『大民』六巻三号）の歌詞
の一番「澄心の鐘豪徳寺 磨節のほこら太夫山」と二番
が掲載されなくなる。

国士館々歌

霧分け昇る陽を仰ぎ
梢に高き月を浴び

此処武蔵野の一義塾
朝な夕なにつく息は

富嶽嵐の天の風

区々現身の粗薪に

大覚の火を打ともし

三世十方焼き尽くす

至心の紅焰^{はのおあふ}煽らばや

至心の紅焰煽らばや

④『国士館要覧』（財団法人国士館、一九二二年七月頃）

写真4

直近の③（『大民』七巻七号）と同歌詞であるが、途中「区々現身の…」で区切られて二番と表記・掲載される。また②（『大民』六巻三号）に見えていた二番「七寸有余の…」は「国士館寮歌（学徒吟）」として分離独立させ掲載している（3、学徒吟参照）。楽譜なし。

⑤『国士館と教育（初版）』（財団法人国士館、一九二六年一月四日 写真5）

『国士館々報』一卷二号（国士館出版部、一九二五年一月一七日）及び『国士館と教育（初版）』に歌詞と楽譜が初めて掲載される。歌詞は現在とほぼ同じとなるが、楽譜は「大民国歌」（写真1）と同一である。

⑥『国士館大学歌集（CD版）』（国士館大学同窓会、二〇一二年二月）

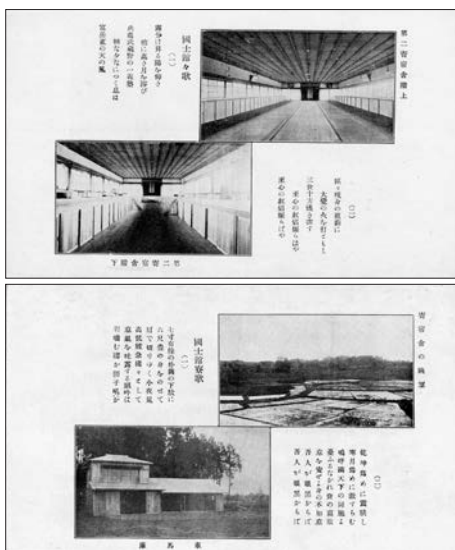


写真4 国士館々歌（上）と国士館寮歌（下）（『国士館要覧』1922年7月）

大学同窓会発行の『歌集（カセットテープ版）』は一九八五年の作成で、一九九三年頃にはCD版となり現在に至る。カセットテープ版から付されている小冊子には、全収録歌の歌詞と楽譜が掲載されるが、本資料（CD版）を含む大学同窓会の発行物では、学園発行の『国士館大
学手帳』（写真2）等とは音階の異なる楽譜が掲載されている。

国 士 館 々 歌
東條鉄苗氏作曲

1. キリウケノボルヒリアホギ
2. セウインノシニセツラマシ
3. クラウツシニノアラマキニ

1. コツエニタカキツキリアビ
2. ゴトウノカネニセツラマシ
3. ゴイカクノヒラウチトモシ

1. ニアニニユルスマスラヲノ
2. アサナニユナニツクイキハ
3. サンゼジツボ一ヤキツク

1. コフシ
2. コガシ
3. コクシ

1. サオノ
2. シノホ
3. ノノホ

1. クゼヤ
2. ジカバ
3. イチナフ

1. ミ
2. ミ
3. ミ

1. 霧わけ剪る風をゆぎ
2. 月に高き月をゆぎ
3. 雲に高く大空の
4. こころの奥の奥
5. 松の間に前を歩
6. 暮後の鐘に心を遣
7. 朝な夕なにつく呼吸
8. 富麗しの天の風
9. 区々との間に
10. 太鼓の火を打ち
11. 三日月を照らす
12. 至心の地を歩
13. 至心の地を歩

（後田徳次郎） 国士館と教育 一九二六年十一月 清流社刊

写真5 国士館々歌
（『国士館と教育（初版）』1926年11月、『国士館百年史 史料編上』185頁より転載）

3、国士館学徒吟（寮歌・逍遙歌・隊歌）

成立年代…一九二一年頃／作詞…柴田徳次郎／作曲…不明／採譜…石川太郎

【解題】もとは『大民』六卷三号（一九二〇年）に掲載された「館歌」歌詞（2、館歌②）の二番である。一九二一年頃に分離独立し、『国士館要覧』（一九二二年七月頃）に「寮歌」として掲載された（2、館歌④参照）。その後は「寮歌」「学徒吟」「逍遙歌」「隊歌」などさまざまな名称で歌い継がれ、また一九六〇年頃には歌詞が増え一〜六番の構成となつて現在に至るが、原則として寮（寄宿舎）で歌われる歌である。館歌と同様、一九六〇年代に職員の水川太郎が曲を採譜・編曲した。なお、戦前から別バージョンの歌詞も存在しており（写真6）、寮別（または専攻武道の別）に一部を改変した歌詞で歌われたと推測できる。また同一歌詞にもかかわらず、一〜四番としたり（『学生生活のしおり一九七六』）、あるいは一〜三番としたり（『学生生活のしおり一九七八』）するなど、歌詞の区切り箇所が異なるものもある。また、歌詞冒頭の「七寸」の読み方は、「ななすん」（『学生生活のしおり一九七八』まで）と「しちすん」（『学

生生活のしおり 昭和五五年度（一九八〇）以降）の
両方の資料が存在する。

①『国士館要覧』（国士館、一九二二年七月頃） 写真4

館歌②『大民』六卷三号（大民団、一九二〇年三月一日）に掲載された「国士館々歌」の二番の歌詞が、本資料で分離独立し「国士館寮歌」の名称で初掲された。楽譜なし。

国士館寮歌

一、七寸有余の朴齒の下駄に
ろくしゅうゆふのくはのくろくたに

六尺豊の身をのせて
ろくしゅうゆふのくはのくろくたに

肩で切りゆく小夜嵐
かたききりゆくこよあらし

高低緩急、縷々として
こうていかんきゅうるる

二、乾坤為めに震駭し
かんけんたにせんがいし
寒月為めに激すらむ
かんげつにげきすらむ

嗚呼満天下の同胞よ
ああまんてんかのどうぼうよ
憂ふるなかれ世の腐敗
うれふるなかれよのふはい
意を安ぜよ身の不如意
いやすんみふにふにい
吾人が眼黒からば
ごじんまごくろからば

【注】 縷々：途切れることなく続くこと。／乾坤：天地の意。

②『霧分け 卒業記念誌』（国士館高等学校、一九五二年

四月二八日）

高等学校の卒業記念文集での掲載で、歌詞は現行の「学徒吟」（『国士館大学手帳二〇二二』ほか、但し一〜六番構成）と類似の区切り構成となるものの、タイトルは「逍遙歌」であり三番構成となっている。なお、戦後の一九四六年一月より国士館は「至徳学園」に改称し、一九五三年四月に「国士館」に復すが、一九五二年作の本資料が「国士館高等学校」表記で発行されている点は興味深い。楽譜なし。

逍遙歌^{しやうようか}

一、七寸有余の方歯の下駄に

六尺豊かの身をのせて

肩で切りゆく小夜嵐

^(高低緩急)
荒天寒久縷々として

二、意気を吐露する浪吟^(朗)は

岩囃む波か獅子吠えか

^(乾坤)
健魂ために震概^(意)し

寒月ために激すらん

三、ああ満天下の同朋^{どうぼう}よ

うれうるなれ世のすたれ

身をやすんぜよ世の人よ

吾人^{まな}が瞳黒からば

吾人が瞳黒からば

③国士館歌集綴（一九八九年頃・鈴木篤旧蔵資料）〔資

料番号5088〕

一九八〇～一九八九年頃に鈴木篤（一九八二年法学部卒）氏によって収集された歌関連の一括資料の一部。この歌はノートに歌詞のみを手書きされたもので楽譜はない。タイトルは「隊歌」とあり、歌詞は②「逍遙歌」④「寮歌」などと若干異なる。さらに、一九四二年二月「専門学校剣道科卒業記念アルバム」（写真6）に、二番歌詞の掲載が見えることから、この「隊歌」は戦前期より存在した①「寮歌」の別バージョンと推測される。一九八〇年代の卒業生によれば、この三番歌詞に見える「大太鼓」は、剣道部学生のみが歌う歌詞であり、通例は「陣太鼓」と歌うものとする（鶴見・宮川）。さらに剣道部では寮内で使用の太鼓を「大太鼓」と呼称したという（戸川博志）。つまり先述の『剣道科卒業アルバム』等の記載も推し量れば、この「隊歌」は、戦前から剣道部（剣道部の寮を含）のみで歌われた歌詞と考えられる。なおタイトル「隊歌」の「隊」については不詳。

隊歌^{たいか}

一、七寸有余の朴歯の下駄に

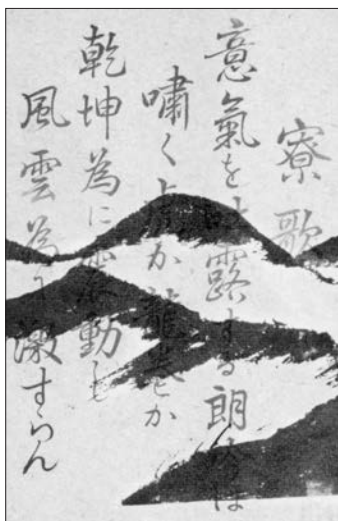


写真 6 寮歌
〔『第九回国士館専門学校剣道科
(卒業アルバム)』1941年3月〕

六尺豊の身を乗せて

肩で切り行く小夜嵐

勇士堂々君見ずや

二、意気を吐露する朗吟は

うそぶく虎か龍卷か

乾坤為に震動し

嵐雲為に激すらん

三、とうとうと鳴る大太鼓

四海の眠り呼び覚し

熱火相打つ掛声に

報国武道の誇りあり

四、此の身は野辺に朽ちぬとも

大和魂 留むべき

松陰の祠を受け継ぎて

国士我等は此に起つ

国士我等は此に起つ

【注】 四海：世界の意。

④『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一

日二刷）

応援用の各歌を収載した『歌集』は、歌詞のみで楽譜の記載はない。本資料『歌集』の寮歌は①③と比して、歌詞が増え一六番構成となるが、後に「学徒吟（寮歌）」「学徒吟」のタイトルとして現在に至る（「学生生活のしおり」など）。この寮歌は、前身となる②「逍遙歌」（一三番構成）と比して三五番歌詞の追加がみられる。また、追加分のうち三五四番をみれば、前出③「隊歌」の歌詞でもあることから、戦前から存在した複数の歌を

一つにまとめたものとも考えられる。つまり本資料『歌集』掲載の寮歌（後の「学徒吟（寮歌）」「学徒吟」）は、既に存在した②「逍遙歌」（一・二・六番）、③「隊歌」（三番、四番、戦前の成立と推測）、及び追加の五番（詳細不詳も既存歌の一部と推測）をあわせ、寮生のための歌として一九六〇代前半には成立したものと推測できる。

寮歌

一、七寸有余の朴の下駄に
六尺豊かな身を乗せて
肩で切り行く小夜嵐
高低緩急縷縷として

二、意気を吐露する朗吟は
巖かむ浪か獅子吼えか
乾坤為に震駭し
寒月為に激すらん

三、とうとう鳴る陣太鼓

四海の眠り呼び覚し
熱火相打つ掛声に
報国武道の誇りあり

四、此の身は野辺に朽ちぬとも
大和魂とどむべし
松陰の祠を受け継ぎて
国士我等は此処に起つ

五、大道捨てたれて仁義あり
天下乱れて吾人あり
皇国に殉す大丈夫の
意気天を衝く国士館

六、嗚呼満天下の同胞よ
憂うる勿れ世の腐敗
意を安んぜよ身の不如意
吾人が眼黒からは
吾人が眼黒からは

4、学生歌

成立年代…一九六三年頃／作詞…戸村晃／作曲…戸村晃

／採譜．．宗鳳悅

【解題】一九六三年頃に応援団学生の戸村晃（一九六五年政経学部卒）が作った歌。第二応援歌と同時期の成立と推定（6、第二応援歌参照）。曲は、文学部講師（声

（樂等）の宗鳳悦が採譜した楽譜の写しが残る（写真7）。冒頭部分歌詞の表記は「武蔵野野辺に…」と「武蔵の野辺に…」が混在している。

①舞鶴寮新入生案内（国士舘大学鶴川分校舞鶴寮、一九六五年五月）

学 生 歌

宗鳳悦採譜

前奏

めーが すしんりーさわれらがーく 金
いも まか いき 二二 べら はる 紫花 うふ んは もの
あふれ あふれ せうと きやう よ二 もろ やし あふれ かふる しレレ
ずすず ずすず のめ く二 レレ リあ 一ふ かく ニ二 わたて てん
すめう すけほ いかで えな 二二 わあれ ががが ががが いレレ
三、若き命を胸に秘わ
我々大なる使命に重し
いざ進め國士雄々と起らん
希望は果てぬ我が学舎

一、武蔵野の野辺に常夏の草も
仰ぎて今日も御恩々蒙レ
いざ進め國士理想は燃えて
めゆす具理よ 我が学舎
二、こころ榮えたる学園は
伝統歴史の深きを誇れ
いざ進む國士英文書かには
永遠に輝く我が学舎

学生歌

Chorus © 1970 Shinko
Reprinted by permission

© All Rights Reserved Shinko Co., Ltd.

写真7 宗鳳悦採譜「学生歌」
(鈴木篤旧蔵国士舘歌集綴)

舞鶴寮のアクセスや規則などが書かれた新入生用案内
三紙の裏面に国士館大学々々生歌・第一応援歌など国士館
関係歌九件の歌詞が刷られている。

国士館大学々々生歌

一、武蔵の野辺に富士の嶺を
仰ぎて今日も 御恵深し
いざ進め国士 理想に燃えて
めざす真理よ我等が学舎

二、此処ぞ栄ある学園に
伝統歴史の深さを誇れ
いざ進め国士 意気高らかに
永遠に輝く我等が学舎

三、若き生命を胸にしめ
我等が大なる使命は重し
いざ進め国士 雄々しく立たん
希望は果てなん我等が学舎

5、第一応援歌（人混沌に迷う世に…）

成立年代…不明（一九六〇年以前）／作詞…不明／作曲…
不明／採譜…宗鳳悦

【解題】「人混沌に迷う世に…」から始まるこの応援歌は、
一部の資料では「柔道部歌」となっていることから、元
は柔道部歌か柔道部の応援歌であった可能性がある。な
お、別の応援歌（7-①「春秋四十有余年…」）または現
在の第二応援歌（6-①「並木照る白銀に…」）を「第一
応援歌」「国士館応援歌 第一」として、本応援歌を「第
二応援歌」「国士館応援歌 第二」としている資料もある。
現在の第二応援歌（6-①）より以前の成立年である。
曲は、文学部講師（声楽等）の宗鳳悦が採譜した楽譜の
写しが残る（写真8）が、旧海軍の「艦隊勤務」（瀬戸
口藤吉作曲）をもとにした歌とも伝わる。

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一
日二刷）

第一応援歌

第一 忘 援 歌

宋鳳悅 校譜



©1999 E-Z-D-Store
All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or by any information storage and retrieval system, without permission in writing from E-Z-D-Store.

© 2000 Blackwell Science Ltd

写真 8 宗鳳悦採譜「第一応援歌」
(鈴木篤旧蔵国士舘歌集綴)

一、人^{ひと}混^{こん}沌^{とん}に迷^{まよ}う世^よに

松陰祀畔の大丈夫が

高^{たか}打^うち鳴^ならす陣^{じん}太^{たい}鼓^こ

いざ響かせよ国士館ひびこくしかん

二、熱血ねっけつ溢るゝ若人わこうどの

三、惑星清し黎明に

金鼓きんこの響ひびき堂どう堂どうと

せいちょうたいきはたかせ
清澄大気の旗風に

迎むかうところみなふる處皆伏して

衝天の意気我にあり
しょうてん いきわれ

6、第二応援歌（並木照る白銀に…）

成立年代…一九六三年頃／作詞…仲谷禎麿／作曲…仲谷

とこよ
常世の勝かちをしめ示しつゝ

いざ響かせよ国士館

いざ響かせよ国士館

禎曆／採譜..宗鳳悅

【解題】「並木照る白銀に…」から始まる応援歌で、一九

学部卒）により作られた。橋田靖夫（一九六五年政経学

（部卒）の回顧によれば、応援団草創期において応援歌を

増やすため「第二」応援歌の制作を仲谷禎磨・戸村晃に

第二 応答歌

泉現悦採譜

祈 願 (いのり) の 知 ぞ こ こ し (いのりのちぞここし)

ト 祈 め きて め はく びん に 祈 ま が じ し め て てい (ト祈めきてめはくびんに祈まがじしめててい)

う 祈 め きて め はく びん に 祈 ま が じ し め て てい (う祈めきてめはくびんに祈まがじしめててい)

さり けば 祈 め きて め はく びん に 祈 ま が じ し め て てい (さりけば祈めきてめはくびんに祈まがじしめててい)

さり けば 祈 め きて め はく びん に 祈 ま が じ し め て てい (さりけば祈めきてめはくびんに祈まがじしめててい)

写真 9 宗鳳悦採譜「第二応援歌」
(鈴木篤旧蔵国士舘歌集綴)

指示したとする（二〇一四年一月聞き取り）。学生歌（4-①）と同時期の成立と推定。曲は、文学部講師（声楽等）の宗鳳悦が採譜した楽譜の写しが残る（写真9）。

駒の怒濤を凱旋の覇者
天下に誇るは我が母校
その名ぞ国士 オス
その名ぞ国士

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一日二刷）

第二応援歌

一、並木照る白銀に玉かじ締めて

敵とらば血みどろのその名ぞ国士

駒の怒濤を凱旋の覇者

天下に誇るは我が母校

その名ぞ国士 オス

その名ぞ国士

二、口笛で歌う（原文ママ）

三、秋風の唯中に紅葉を踏んで

意気衝くや猛けり起つその名ぞ国士

7、国士館応援歌 第一（春秋四十有余年…）

成立年代…不明（一九六〇年頃）／作詞…不明／作曲…不明

【解題】「春秋四十有余年…」で始まる応援歌で、一九六〇年頃、学生に配布されたプリントに掲載されている。

なお、プリントではこの歌を「国士館応援歌 第二」とし、「人混沌に迷う世に…」から始まる現・第一応援歌（5-①）を「国士館応援歌 第二」としている。成立年は、

国士館一九一七年の国士館創立年から「四十有余年」を経たとの歌詞から推定。

①国士館教育関係資料一括（一九六〇年代）「資料番号1701」

一九六〇年代頃の館長訓話などで学生に配布された一括資料の一紙。楽譜なし。

国士館応援歌 第一

一、春秋四十有余年

国士の伝統君知るや

熱と意気とにきたえたる

我等が鉄壁選手団

二、武蔵野原の炎天に

松陰祠畔の観月に

共にちかいてはげみたる

我等が同志選手団

三、紅葉が原のえいにな

今こそ来れり競技場

心は常に共にあり

我等が希望選手団

8、応援歌（我国士館の意気富みに…）

成立年代：不明（一九七〇年以前）／作詞：不明／作曲：不明

【解題】「我国士館の意気富みに…」から始まる応援歌で、一九七〇年の「言道歌集」六号以外の資料は確認できない。また「15、柔道部歌」と類似の歌詞を含むことから、元は柔道部の歌であつたとも推測される。

①「言道歌集」六号（大学言道部、一九七〇年七月一〇日）

大学言道部で作成された歌集。発声練習に歌唱を取り入れたため、言道部独自に歌集が作成された。楽譜なし。

応援歌

一、我国士館の意気富みに

燃ゆる高嶺の富士の山

岩より固きこの胸を

今日の戦に燃やさばや

二、花の吹雪と散る身こそ

実に武士の幸なれや

肉弾なりて行くところ

誰れが向うる敵あらん

三、戦雲せんうん暗くらく柵（柵・たな）引きて

若き生命わか いのちと清き名きよなの
為ために我われらが振ふるうとき
いかでか勝かたで帰かえるべき

四、輝かがやく最後の栄冠さいご えいかんを

誓ちかいてとらん我腕わがうでに
勝かつも敗やぶるも堂々どうどうと
力ちからの限かぎり戦たたかいて
倒たおれてのちに上（止・や）まんこそ

9、応援歌（富嶽風吹き荒れて…）

成立年代…不明（一九七〇年以前）／作詞…不明／作曲…
不明

【解題】「富嶽風吹き荒れて…」から始まる応援歌。「剣
道部歌」とする資料も確認できる（9②参照）。

①「言道歌集」六号（大学言道部、一九七〇年七月一〇日）

応援歌
（おうえんか）

一、富嶽風ふがくおろし吹き荒あれて

戦雲せんうん巻まくや大夫山だいふやま
昇しょうてん天てんの意気いき高たからかに
進すすまん哉かなや いざやいざ

二、一角崩いっかくくずれ又崩またくずる

敵てきの陣営色じんえいしきめけば
疾風迅雷しつふうじんらい踊り込む
剽悍ひょうかん決死けつしの我健児わがけんじ

三、我等われらは勝ちぬ優勝ゆうしょうの

旗はたは燦さんたり夕陽せきやうに
勝鬨からどきの声こゑ 張はり上げて
帰かえらん哉かなや いざやいざ

【注】剽悍…素早く荒々しいこと。

②国士館関連歌詞一括（作成年不明）楽譜なし「資料

番号7374」

国士館関係歌の歌詞が列記された一括資料の一紙で、

一九九〇年代に職員佐々木宗興が粗年表作成のために収集使用したもの(粗年表編集資料)。本資料は複写コピーに佐々木ほか複数人の後筆・訂正跡がある。「13・14、剣道部歌」に関連。

(後筆「心機歌」)
剣道部歌

一、富嶽(後筆「嵐」) 吹き荒れて

戦雲(界) 巻くや大富士おおふじ

勝天(界)の意気、敵宮てきえいに

いさみて向ふ常勝軍むかじょうしょうぐん

一角くずる又くずれ

敵の陣営(迅音)いろめけば

疾風陣来躍りこむ

ひょうかん決死の我が健児(後筆「闘悍」)

我等は勝ちぬ優勝の

旗はさんたり夕陽に

勝時の声張り上げてからくさ

帰らんかなや、いざやいざ

10、国士館中学校校歌

成立年代…一九三九年頃／作詞…土井晩翠／作曲…山田耕柝(耕作)

【解題】中学校校歌は、一九三六年三月卒業の第九期卒業生から制作費の寄付を受け、作詞を土井晩翠、作曲を山田耕柝に依頼して制作された。これは一九四〇年六月一〇日付で文部大臣から「唱歌用歌詞楽曲」としての校歌採用の認可を受けている。なお制作後の校歌を在学生徒が歌ったかは不明である。

①「昭和一二年度 国士館中学校校友会会報」一号(国

士館中学校校友会、一九三七年三月)

寄付を受けた翌年発行の本資料「校友会会報」には、新校歌の歌詞が掲載される。但し楽譜の掲載はない。この時点で曲は未完成であったとも推測される。

国士館中学校校歌
こくしかんちゅうがっこうこうか

土井晩翠作
どいばんすい

一、武蔵原頭 松陰神社
むさしげんとう しやういんじんじや

其そは近くに われらの校舎
朝夕仰ぐは 無双の富嶽

二、殉難報国 尊き犠牲

譽の烈士を 模範と仰ぐ
健児の一団 勉たるところ

三、文武の二道を 合せて磨く

青春盛りの 血潮は熱し
希望の光は 高らに照らす

四、祖先の伝統 わが身に継ぎて

四海平和の 理想に尽し
日本の譽を 世界に掲げむ

②国士館中学校校歌採用認可申請書（一九三九年一〇月

二五日、東京都公文書館所蔵）

国士館中学校が一九三九年一〇月二五日付で東京府に提出した本資料には、校歌制作の経緯と歌詞・楽譜（写真10）が記される。全文は『国士館百年史 史料編上』

国士館中学校 校歌

雄渾明朗に

（東京都公文書館所蔵）

写真10 中学校校歌楽譜
（中学校校歌採用認可申請書、1939年10月、東京都公文書館所蔵、『国士館百年史 史料編上』より転載）

1部3章3節史料48（七七六頁）参照。

11、至徳学園校歌

成立年代…一九四六年頃／作詞…鮎澤巖／作曲…（フランス国歌）

【解題】終戦後、GHQ/SCAPによる占領下の影響を受けて、一九四六年一月に国士館は「至徳学園」へと名称を変更する。これに伴って従来の国士館館歌に代わり校歌も新たに制作された。楽譜は確認できないが、作詞鮎澤巖、曲はフランス国歌を元すると伝わる（『国

士館百年史 通史編」三五九頁参照）。

①「昭和二十二年度 至徳専門学校卒業生名簿」〔至徳専門学校、一九四七年二月二日〕「資料番号386」

至徳学園校歌

一、見よや日本の同胞よ 至徳学園に

更生の決意に燃えて希望に

かゝやく全日本の健児団。

封建独喜の弊挙りて打ち攘ひ自由と友愛の

理想に血はたぎる 吾人類の福祉を念じ

務めはげむ使命に われらは起てり。

二、聞けや諸びと黎明に 至徳学園の

樹陰の静寂を破り校庭に

どよめく若人の喊声を。

誠意勤労気魄見識を旨とし正義と博愛に

使命を捧げつゝ、吁日本の再建のため

奮ひすゝむわれらの 誓は固し。

三、来り四海の同胞よ 至徳学園に

真理の擁護のために敢然と

たゝかふ人道の十字軍。

武断専制の敵悉く打ち破り民主的文明の

社会をきづくため 吁永遠の平和を目指し

いざや往かむ世界の 同志よ来れ。

12、高校応援部部歌

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

①応援部手帳（応援部、一九九七年頃）

国士館高等学校応援部の手帳。館歌や応援歌などの歌詞や楽譜、応援部内規のほか、弁論の方法、書道・歴などの教養に関する内容も多く収載する。一部の歌には楽譜あり。

応援部部歌

一、松陰の杜の桜の下で、胸に刻みし

我らが教え

ひとつに礼節^{れいせう} ふたつに気力^{きりよく}

これが国士^{こくし}の応援部

我^{われ}らが国士の応援部

二、声^{こえ}を鍛^{きた}える 武蔵野^{むさしの}の夏^{なつ}

振^ふりを磨^{みが}く 武蔵野^{むさしの}の夏^{なつ}

道^{みち}を究^{きう}める 武蔵野^{むさしの}の夏^{なつ}

これが国士の応援部

我^{われ}らが国士の応援部

三、豪徳^{こうとく}の鐘^{かね}を朝^{あした}に聞^きけは

梅^{うめ}もほころぶ 弥生^{やよい}の空^{そら}に

己^{おのれ}が姿^{すがた}を無^む心^{しん}に探^{さぐ}る

これが国士の応援部

我^{われ}らが国士の応援部

13、剣道部歌（富嶽風吹き荒れて…）↓「9、応援歌」

②（富嶽風吹き荒れて…）「参照。」

14、剣道部部歌（武蔵高原月冴えて…）

成立年代…一九六二年頃／作詞…村上済／作曲…不明

【解題】作詞した村上済（一九六四年体育学部卒、剣道部五期）の回顧記には、三年次生の村上が「喧嘩」による無期限停学処分を受け松陰神社で物思いに耽っている時に浮かんだ詩をもとに作ったとある（『国士館大学回天剣友会五十周年記念誌』二〇一二年三月、国士館大学回天剣友会、三九頁）。三番の歌詞は学徒吟〈寮歌〉（3・③・④）を引用している。

①LPブック『国士』（一九七四年一月二六日、柴田徳

次郎一周忌記念制作）

LPブック『国士』は、創立者柴田徳次郎一周忌を記念し有志によって制作されたもので、収録歌詞を含めた記念誌にLPレコード二枚が同梱された装丁である。楽譜なし。

国士館大学剣道部部歌

一、武蔵高原月冴えて

松陰森の月青し
しょういんもり つきあおし

剣士の胸はひと燃えて
けんし のむね はひと もえて

刃にさわる月青し
やいば にさわる 月青し

あー 国士館の剣道部

あ、 国士館の剣道（部）

二、
水珠かぶる夏の日に
みなたま かぶる なつ ひ

珠なす汗の心地良さ
たま なす あせ のこちよ

真冬の板場凍りなば
まふゆのいたばこお

我血潮をもて温めん
わがちしおもて あたた

あー 国士館の剣道部

あ、 国士館の剣道（部）

三、
トオ トオ トオ なる大太鼓
（四・し）かい ねむ トオ なる おおだいこ

死 界の眠り呼び醒ます
し かいのねむりよびさます

熱火相打つ掛け声に
ねつかあいう か こんえ

皇国武道の誇りあり
こうこくぶどうのほこりあり

あー 国士館の剣道部

あ、 国士館の剣道（部）

②『国士館大学回天剣友会五十年史』（国士館大学回天剣友会、二〇一二年三月）

前記①LPブック『国士』掲載の剣道部歌と比して、歌詞二番「真冬の板場凍りなば」が「真冬の道場凍りなば」に、三番冒頭部が「滔々と鳴る大太鼓」に、同じく三番「皇国武道の誇りあり」が「報国武道の誇りあり」に変化して掲載されている。楽譜なし。

15、柔道部歌（戦雲暗くたなびきて）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】本歌は、歌詞の順序や区切りに相違がみえるものの「8、応援歌」に類似しており、両歌の成立年は明確でないが柔道部以外の応援でも歌われるようになるものとも推測される。

①国士館関連歌歌詞一括（作成年不明）楽譜なし「資料番号7374」

国士館関係歌の歌詞が列記された一括資料の一紙で、一九九〇年代に職員佐々木宗興が粗年表作成のために収集・使用したもの（粗年表編集資料）。本資料は複写コピー

に佐々木ほか複数人の後筆・訂正跡がある。この他に掲載される資料は確認できない。

柔道部歌
じゅうどうぶか

一、戦雲暗くたなびきて
せんうんくらく たなびきて

若き命と清き名の
わか いのち きよ な
ために吾等が奮ふ時
われら ふる ととき
何時でか勝で帰るべき
いつ かた かえ

二、輝く最後の栄冠を
かがや きいご えんかんを

誓ひて取らん我が腕に
ちか けと らん わが うで
勝も負も堂々と
かつ まける どうとうと
真の道を踏み行かん
しん の 道 を ふみ ゆ

三、力の限り戦いて
ちから かぎ たたか

倒れてのちにやまん時
たお れて の ちに や ま ん ととき
吾に正しき奮闘は
われ ただ せいしき 奮とうは
天地の神もみそなはず
てん ち の かみ も み そ な は ず

16、柔道部歌（人混沌に迷う世に…）↓「5. 第一応援歌」参照。

17、言道部部歌
げんどうぶぶか

成立年代…一九六一年頃／作詞…島津定泰／作曲…石川太郎

【解題】一九六一年頃創部の言道部の歌。作詞の島津定泰は、福岡県出身、東京商科大卒を経て海軍予備中尉の来歴で、創部時に言道部「師範」に迎えられた。一九六三年九月に奉職（副室勤務・教授待遇職員）も一九六五年九月に急逝した。言道部「部歌」のほか「言道部綱領」第一・第二など、その演壇練習・発声練習に必要な素材が島津の作で整えられた。

①「言道歌集」六号（大学言道部、一九七〇年七月一〇日）

言道部部歌
げんどうぶぶか

一、沸々と
ふつと

燃ゆる血潮を胸に秘め
も ちしお むね ひめ

故郷出でて武蔵野の
 国士の館に学びしが
 歴史は流れて早三年
 叫べ見識 わが言道部

二、ほのぼのと

春の陽浴びて爛漫と
 桜花は今も匂へども
 昔に代る日本の
 まことの姿既になし

叫べ誠意の わが言道部

三、堂々と

馬上豊かに三間の

槍をしごきし若武者の
 出陣に似たこの首途

魂吐きて悔ゆるなし
 叫べ雄々しき わが言道部

四、月悲し

万山黄ばみて秋たけぬ
 まこと捧げしつわものの
 あとに続きてその夢を
 果すことこそわが務め
 叫べ気魄の わが言道部

五、松柏の

みどりのうるわし大八州
 正気抱きて尚眠る
 民一億よこぞりたて

正論叫びて世を創る
 あ、天の声 わが言道部

作 島津定泰

② LPブック『国士』（一九七四年一月二六日、柴田徳次郎一周忌記念制作）

言道部部歌①の二・四番の歌詞がなくなり、一・三・五番の歌詞が一〜三番となっている。

18、体操部の歌

成立年代…一九六四年頃／作詞…山下武士／作曲…佐々木敏之／編曲…石川太郎

【解題】東京オリンピックの頃、体操競技部副部長の池田睦彦の発案で「意気高揚」のための歌を作ることになり、体育学部七期の部員佐々木敏之が作曲、同六期の部員山下武士が作詞し、石川太郎の編曲によって成立した（『国士館大学体操競技部創立三〇周年記念誌』国士館大学体操競技部後援会、一九八六年三月二五日、一八七頁）。

①『国士館大学体操競技部創立三〇周年記念誌』（国士館大学体操競技部後援会、一九八六年三月二五日）楽譜あり

体操部の歌

作詞 山下武士

作曲 佐々木敏之

編曲 石川太郎

一、花紅はなぐれないなに 香かほる身みの

燃もゆる胸むねの火ひ 意気いき高たかし
日頃ひごろ鍛えし この心こころ いざや見みん
我等われら国士こくしの体操部

二、血潮ちしほよたぎれ 誰たが胸むねに
険けわしき道みちの 遠とくとも
日頃ひごろ学まなびし この技わざを いざ示しめせ
我等われら国士こくしの体操部

三、高き望たかにのぞみ この斗志（闘・と）し
今いまぞ語かたらん 我集われつどい
日頃ひごろ誓ちかいし この団結だんけつよ いざ進すすめ
我等われら国士こくしの体操部

19、ラグビー部の歌「燃ゆる闘魂」

成立年代…不明（一九五九年以降）／作詞…二ツ森修／作曲…新賢一／編曲…高松伸光

【解題】作詞の二ツ森修（一九六三年体育学部卒）は、一九五九年ラグビー部創部時の部員であり、のちにラグビー部監督・体育学部教授となる。

①『国士館大学ラグビー部創部三〇周年記念誌 勇魂』

(国士館大学ラグビー部・国士館大学ラグビー部後援

会、一九九二年十一月二七日) 楽譜なし

国士館大学ラグビー部の歌¹

燃ゆる闘魂

二ツ森修 作詞、新賢一 作曲、

高松伸光 編曲

開明めざす両雄の精神磨きし我らの館

ファイティーン・ファイティーン 血潮は燃ゆる

ワインカラーのスクラムで

ゴールをめざして押し進め

轟け轟け武蔵野に 今我らに敵はなし

国士 国士 国士館

今敬天の節至る 技をきたえし我らの館

ファイティーン・ファイティーン 流れる汗に

ワインカラーのスクラムで

ゴールをめざして突き進め

轟け轟け武蔵野に 今我らに敵はなし

国士 国士 国士館

仁愛深し建学の 心技一体我らの館

ファイティーン・ファイティーン 気魄が宿る

ワインカラーのスクラムで

ゴールをめざして命をかける

轟け轟け武蔵野に 今我らに敵はなし

国士 国士 国士館

20、ラグビー部の歌「風を呼ぶラグーマン」

成立年代…不明(一九五九年以降)／作詞…のまたくま

／作曲…新賢一／編曲…高松伸光

①『国士館大学ラグビー部創部三〇周年記念誌 勇魂』

(国士館大学ラグビー部・国士館大学ラグビー部後援

会、一九九二年十一月二七日) 楽譜なし

国士館大学ラグビー部の歌²

風を呼ぶラグーマン

のまたくま 作詞、新賢一 作曲、
高松伸光 編曲

風に走れ 無心に走れ

風の色が 変わるまで

鍛えた心 鍛えた身体

ラグビーボール 追いかける

命を燃やせ 命を燃やせ

我らが母校

国士 国士 国士館ラグビー部

風を呼ぶよ 未来を運ぶ

君よ走れ ゴールまで

平和の戦士 平和の国士

闘う勇姿 光る汗

血潮よ燃えろ 血潮よ燃えろ

我らが母校

国士 国士 国士館ラグビー部

風と走れ 仲間と走れ

ファイフティーン ラガーメン

チームを信じ 勝利をつかめ

スクラム組んで 突き進め

炎と燃えろ 炎と燃えろ

我らが母校

国士 国士 国士館ラグビー部

21、日本拳法部部歌

成立年代：不明（一九七〇年頃）／作詞：浅野寛／作曲：

浅野寛

【解題】 作詞・作曲の浅野寛は、一九七四年文学部卒の学生と推測される。

①「国士館日本拳法部創部五〇周年記念式典（プログラ

ム）」（国士館日本拳法部、二〇一四年二月一五日）

歌中、「武田節」（作詞 米山愛紫、作曲 明本京静、

一九六一年）が挿入されている。楽譜なし。

国士館大学日本拳法部 部歌

作詞・作曲 第八代 浅野寛

一、夜の渋谷の道玄坂で

稽古帰りに呑む酒は

右手に左手に盃持つて

唄う歌なら武田節

《甲斐の山々陽に映えて

われ出陣にうれしいなし

おのおの馬は飼いたるや

妻子につつがあらざるや あらざるや》

二、酒を呑んでも吞まれちならぬ

明日の試合の決め技は

左面突き右突き蹴りで

肉を切らせて骨を断つ

三、花のお江戸の国士の杜に

今日も聞こえる掛け声は

男一命をリングに懸けた

これぞ国士の拳法部 押忍

これぞ国士の拳法部 押忍

22、空手道部々歌

成立年代…一九八三年頃／作詞…高木正朝／作曲…山羽三郎

【解題】地下階に空手道場が整備された一九八三年四月の柴田会館の竣工に際し、「空手道々場新築落成記念」として日本空手協会の高木正朝から献歌された歌である。

①『国士館大学空手道部五十周年記念誌』（国士館大学空

手道部・国空会、二〇一四年二月一日）楽譜あり

国士館大学空手道部々歌

作詞 社団法人日本空手協会

総本部 高木正朝

一、若い血潮の高鳴りに

汗にまみれて火と燃ゆる

熱烈練磨の闘魂は

あ、国士館空手道

二、希望溢れる青春の

拳に誓う友情よ

正義の讃歌高らかに

あ、国士館空手道

三、世界に開く建学の

理想の道に燦然と

文化の光 掲げたり

あ、国士館空手道

23、合気道部々歌

成立年代…不明（一九六二年頃）／作詞…不明／作曲…

（青年日本の歌・三上卓）

【解題】原曲は一九三〇年に海軍中尉三上卓が作った「青年日本の歌（昭和維新の歌）」（Ⅳ-6参照）の替え歌である（宮川）。

①「国士館健児熱血歌唱祭（プログラム）」（国士館健児

熱血歌唱祭実行委員会、一九八五年頃）「資料番号

22623」

プログラム目次では「合気道同好会歌（合気道同好会）」

と記載される。歌詞中の「たゆうが山」は「大夫山（だ

いばやま）」（松陰神社周辺の古地名）を指すと推定する。

楽譜なし。

合気道部々歌

一、ああ我が胸にたぎり立つ

義憤の血潮いかにせん

世の流布を消さんとす

国士我等が合気道

二、春は桜か 秋なら紅葉

咲いて見事な松陰祠畔

誓って御仁を清めんと

たゆうが山に我等立つ

三、日が西山に沈むころ

熱氣溢るる青畳

朋友互いに練磨して

合気精神汲み取らん

合気精神汲み取らん

24、国防部々歌

成立年代…不明（一九七〇年頃）／作詞…不明／作曲…
（民族の歌・古賀政男）

【解説】原曲は一九六九年二月発表の「民族の歌」（作詞児玉蒼士夫・作曲古賀政男）の替え歌である。国防部（国防研究部）は一九六二年頃の創部で、当初は高等学校教諭齋藤朋雄を部長として活動した。部は一九七八年六月に解散指示（「会報」五三―三九号）が出されるも、有志による活動は続けられた。

①合気道部心得メモ（一九八〇年頃、宮川英之氏所蔵）
楽譜なし「資料番号22626」

国防部々歌

一、若き力を青春に

賭けていざ行く我が道を

護国尊皇七生報国

いざ行け国士の国防部

二、桜花散る国士館

意気は木霊し丹沢嶺に
此処に捧げて愛する母校
進め国士の国防部

三、憂国目指す曙は

我が栄光意気の声
菊の薫る武蔵野に
轟け国士の国防部

四、嵐の中を我等行く

響け雄叫び松陰杜に
遙るか彼方に白雲靡く
輝け国士の国防部

25、国士の雄叫び（行進曲）

成立年代…一九七〇年／作詞…（歌詞なし）／作曲…石川太郎

【解題】戦後、各式典で実施された分列行進の際には軍艦マーチを使用していたが、職員で大学吹奏楽部部長の石川太郎が発案し、国士館に相応しい行進曲として館歌をテーマに作曲した（石川太郎「吹奏楽部一〇年の歩み」一九七三年頃〈「プラスバンドの十年の歩み綴」〉）。成立直後の一九七〇年三月一〇日に、7インチレコード「館歌・寮歌／「国士の雄叫び」として収録・発行されている。

Ⅱ 関連学校歌

国士館の関係者が設置したアマゾン産業研究所及び満洲鏡泊学園の関連歌を収載した。これらは一九三〇年設置の国士館高等拓植学校に関連する組織機関である。

1、アマゾン産業研究所・同実業練習所の歌

成立年代…一九三〇年一二月頃／作詞…上塚司／作曲…

陸軍戸山学校軍楽隊

【解題】国士館高等拓植学校卒業後の入植候補地として、一九三〇年一〇月、ブラジル国アマゾナス州に設けたアマゾン産業研究所と附属実業練習所の所長上塚司の作詞による。『大民』第一七年三号（一九三一年三月）の掲載記事には、アマゾン第二次調査で渡伯中の上塚が、大西洋の船上から国士館に宛てた近況に同歌の成立が示されている。曲の成立は、上塚帰国前後の一九三二年三月と推測。なお同歌は一九三二年四月、上塚によって神奈川県橘樹郡生田村（現川崎市多摩区東三田）に設置された日本高等拓植学校の「校歌」となる。

①「門出の歌・アマゾン産業研究所・同実業練習所の歌」（一九三〇年五月二〇日）【資料番号20959ほか】

共に上塚司の作詞である「門出の歌」と「アマゾン産業研究所・同実業練習所の歌」の歌詞を一紙に印刷したもの。歌詞は『大民』第一七年三号（一九三二年三月）、『アマゾン産業研究所月報』第一号（一九三二年八月）にも掲載。楽譜なし。

アマゾン産業研究所・同 実業練習所の歌

上塚司

第一節 希望

碧り綾なす大空に
金色の雲照り映へて
霞に咽ぶアマゾンの
流れ豊けき朝ぼらけ
草踏み分けて岸に立つ
健児の胸に希望あり

第二節 学舎

浴 ようとしてたゆみなく
水は揺ぎて四千里
北ブラジルの中枢に
七大河川の合しては
大江に入る要地こそ
我が学舎の在る所

第三節 植民地

広ぼう八百余万町
緑の森は天を蔽ひ
清き流れは地を洗ふ
南十字の星影に
カカオ花咲き風薫る
新日本の植民地

第四節 土民

アンデラ河の高台に
斜に懸る三日月は
世の推移を外にして
椰子の葉蔭に白銀の
砂を蹴りつゝ舞ひ狂ふ
太古の民を照すかな

第五節 創造

白鷺の群嬉々として
渚に遊ぶジョゼアッスウ
肥沃の高台の木の間より
プランタマキナ（原文ママ播種機）の冴ゆる音は

天地万有創造の
歡喜に満つ（る）樂の音か

第六節 努力

神の御庫に秘められし
富源の扉開かんと
重き使命を荷ひつゝ、
大和男子が振りかざす
フオイセ（原文ママ）の先に世を救ふ
新文明の光あり

第七節 建設

高き理想に燃へ立ちて
朝な夕なに若人が
原生林に打揮ふ
斧の響に建国の
尊き歴史は刻まれん
我等の歴史を作らばや

以上

2、門出の歌

成立年代…一九三〇年五月二〇日／作詞・上塚司／作曲…
陸軍戸山学校軍楽隊

【解題】一九三〇（昭和五）年四月に設置した国士館高等拓植学校の第一回卒業生のうち三五名が一九三一年四月一九日に横浜を出港してブラジルに向かう際に歌ったとされる。

①「門出の歌・アマゾン産業研究所・同実業練習所の歌」
（一九三〇年五月二〇日）「資料番号20955ほか」

門出の歌 上塚司

第一

男子一度決すれば
如何なる事か成らざらん
遠く渡りてアマゾンに
新日本を樹てよとの
君が 御訓畏みて
今日を門出の晴の旅

第二

希望の海に棹させば
 早や祖国の島影は
 霞の中に消へ去りて
 紺青の波南溟に
 浮ぶは大英帝国の
 東亜の鎖鑰香港か

第三

世界の咽喉と誰が言ひし
 新嘉坡の埠頭に
 高く聳ゆる銅像は
 スタンフォードラッフルが
 偉業を偲ぶジオンブルの
 無限の感謝凝る所

第四

草奔の志士クライブが
 一剣天下の志
 已むに止まれぬ鬱勃の

燃ゆる思ひはベンガルの
 湾頭高く翻る

ユニオンジャツクの旗に見る

第五

恋を失ひ肺を病み
 広き天地に容れられず
 悶々の情アフリカに
 新帝国を築きてし
 セシルローズの跡訪へば
 健児の胸は躍るかな

第六

海路遙かに天孫の
 パリンチンスに来て見れば
 天の潤ひ地の恵み
 生々として蔽ほひ立つ
 原生林の広がり
 アンデス以東三千里

第七

これぞ我等の發祥地われら はつしようち

いな、く駒に跨りてこま またが

小手をかざして眺ればこて ながむ

今烈々の朝日影いまちれつ あさひかげ

はてもしらぬ樹の海のうみ

雲を破りて昇り行くくも やぶ のぼ

昭和五年五月廿日

【注】鎖鑰（さやく）…要衝の地。／スタンフォード・

ラッフル…イギリスの植民地行政官、近代シ

ンガポール建国の父。／ジオンブル…ジョン・

ブル、イギリス人のこと。／クライブ…ロバー

ト・クライブ、英領インドの基礎を築いたイ

ギリス軍人。／セシル・ローズ…南アフリカ

の鉱山業で巨富を得て植民地首相となつたイ

ギリス人。

3、満洲鏡泊学園校歌

成立年代…一九三三年七月頃／作詞…真野正順／作曲…

山田耕筈

【解説】一九三二年一〇月、国士館理事の山田悌一らが満洲国に「満洲鏡泊学園」を設置する。しかし一九三四年五月に匪賊の襲撃で山田らが死去した後、満洲鏡泊学園は翌年七月に解散となる。作詞は国士館評議員・理事の真野正順。作曲は、後に国士館中学校校歌（I-10参照）の作曲も手掛けた山田耕筈。本歌は一九三三年七月に成立し、同年八月に渡満予定の学生らが、国士館の柔道場でレコードに合わせて校歌の練習をしたという（野田美鴻『先師録』、私家版、一九七八年二月）。この頃の制作と推測するSPレコード「鏡泊学園の歌（中野忠晴独唱、山田耕筈ピアノ伴奏）／合唱満洲興国の歌（山田耕筈指揮、江文也・日本コロムビア合唱団、同バンド伴奏）」（日本コロムビア社）が現存する。

①『国士館大学新聞』二三七号（国士館大学新聞編集局、一九八三年五月二七日）

鏡泊学園殉難者五〇回忌追悼法要を伝える記事に楽譜と共に掲載。

満洲鏡泊学園校歌

真野正順 作詞

山田耕筰 作曲

一、北溟の空 風暗く

星影淡き鏡泊の

湖畔に來たり朝霧を

破りて崇き高邁の

東亜の炬火かかげ立つ

日東の健男兒、健男兒我等

二、渤海の昔 王者出で

王化を遠く布しより

幾星霜や草の跡

沃土再び王道の

恵みに返す人や誰

日満の健男兒、健男兒我等

三、奥長白の嶺清く

牡丹の流れ岸を囀む

山水紫明の地を選み

質実剛毅の理想郷

打ち拓くべく渡り來し

日東の健男兒、健男兒我等

四、嗚呼神州の大丈夫が

汗と血をもて築きつる

王土の上に輝ける

理想は遠く空越えて

亜細亜全土の炬火とならん

日満の健男兒、健男兒我等

4、鏡泊学園寮歌

成立年代…一九三二年頃／作詞…田中七治／作曲…田中

七治

【解題】作詞・作曲を手掛けた田中七治は、満洲鏡泊学園の「園医」「学園医」の役であり（『満洲鏡泊学園渡満者名簿』一九三三年八月ほか）、鏡泊学園の音楽隊も指導した（鏡泊学園アルバム『湖畔の炬火（ひかり）』、一九三五年頃）。

①『鏡泊』二巻四号（満洲鏡泊学園本部、一九三四年一

〇月一五日）

雑誌『鏡泊』は、吉林省の鏡泊学園本部から年四回ほど発行された。内容は、学園近況や農業、現地の歴史・地理、川柳など。楽譜なし。

鏡泊学園寮歌

作歌 田中七治

一、沖に逆巻く黒潮の

瀬よりもはやき若人の

血潮の色の紅きかな

再び還らぬ青春の

身をば鍛えん時ぞ今

起て学園の健男児

二、歴史栄ある大亜細亜

青年亜細亜に幸あれと

崇き希望の炬と燃えて

やむにやまれぬ大和魂

尊き縁に結ぶ健児の
見よ学園の大家を

三、山紫に水碧き

鏡泊湖畔に堂々と

北溟の空にそびゆるは

健児試練の大道場

吾等が行手は久遠の道ぞ

起て学園の健男児

四、百合鈴蘭の薫る春

山樫子浜の夏の宵

砲台山の秋の月

銀盤に踊る冬の快

唄に夜が明け日が暮れる

見よ学園の団欒を

5、鏡泊学園数え歌

成立年代…一九三三年頃／作詞…不明／作曲…不明

【解題】「Ⅲ学生歌集」でも取り上げる数え歌の一種、「Ⅲ

①、国士館数え歌」や「Ⅲ-7、国士豪気節」と同種の歌と推察される。

①『鏡泊誌その二（鏡泊学園村外史）』（田島梧郎著、私家版、一九八五年頃）

『鏡泊誌その二』は、鏡泊学園や関係者などについてまとめた学園卒業生田島梧郎の回顧録。同書には「これは鏡泊学園寮歌の中の『数え歌』と記されており、当時の鏡泊学園の学生たちに歌われた歌の一つである。

学園数え歌

ひとつとせ 人に知られぬ 鏡泊湖
渤海文化の興りし地 ソイツァー 剛気だね！

二つとせ 二親見捨て、来たからにやー
末の成功は胸の中 ソイツァー 剛気だね！

三つとせ 見よ長白の嶺清く
牡丹の流れ 岸を嘔む ソイツァー 剛気だね！

四つとせ 善し悪し言う奴は野暮な奴
色気 娑婆気を捨てた身が ソイツァー 剛気だね！

五つとせ 意気に溢れる三年の
学園生活あー 国のため ソイツァー 剛気だね！

六つとせ！ 昔を偲ぶ高麗城
湖畔の柳の葉隠れに ソイツァー 剛気だネエ！

七つとせ 泣いちゃいけない気が弱い
亜細亜全土に吼ゆる身が ソイツァー 剛気だね！

八つとせ 聴て でかすぞこの腕で
鏡泊湖畔の理想郷 ソイツァー 剛気だね！

九つとせ 此処は北満 鏡泊湖
(匪) 賊 馬賊の棲む所 ソイツァー 剛気だね！

十とせ とうとう学園卒業して
満洲姑娘と愛の巣を ソイツァー 剛気だね！

【注】 姑娘（クーニャン）…女の子。

6、鏡泊音頭

成立年代…一九三三年頃／作詞…杉山式外有志一同／作曲…（東京音頭）

【解題】 作詞の「杉山式」は満洲鏡泊学園の学生。『昭和八年八月 満洲鏡泊学園渡満者名簿』（財団法人満洲鏡泊学園、一九三三年八月）によると、神奈川県出身で当時一八歳であつた。後に鏡泊学園卒業生らによる鏡友会の主メンバーとなり、鏡友会の運営や鏡泊学園之碑（那須高原南ヶ丘牧場）建立などに関わつた。

①『鏡泊』二巻一号（満洲鏡泊学園本部、一九三三年一月一〇日）楽譜なし

鏡泊音頭
きょうはくおんど

一、ハア 踊り踊るなら チョイト鏡泊音頭
おど

ヨイ／＼

首と血潮くびちしおの 首と血潮まんなかの真中で サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ
ヤートナソレヨイヨイヨイ

二、ハア 満洲まんしゅうヨイトコ チョイト亜細亜あじあの護りまも

ヨイ／＼

君きみがミイズは 君がミイズは君照てらす サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

三、ハア 匪賊ひぞくは敦化とんかよ チョイト 女おんなは新京しんきやう

ヨイ／＼

月つきは鏡泊湖の 月は鏡泊湖の船ふねの上うへ サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

四、ハア 俺おれが学園がくえんは チョイト 満洲まんしゅうの花はなよ

ヨイ／＼

文ぶんと劔けんの 文と劔の熱血児ねつけつじ サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

五、ハア 妻^{つま}をめとるなら チョイト 満洲のクー

ニヤン ヨイく

結^{むす}ぶ鏡泊湖の 結^{むす}ぶ鏡泊湖の愛^{あい}の家^{いえ} サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

六、ハア 西^{にし}は白頭山^{はくとうざん} チョイト 北^{きた}には敦化

ヨイく

音頭^{おんど}とる子は 音頭^{おんど}とる子は学園児^{がくえんじ} サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

七、ハア 昔^{むかし}や東京城^{とうきょうじょう} チョイト 満洲^{まんしゅう}の大命^{たいめい}

ヨイく

今^{いま}は学園^{がくえん}の 今^{いま}は学園^{がくえん}の文化村^{ぶんかむら} サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

八、ハア 男死^{おとし}ぬなら チョイト 満洲^{まんしゅう}の原野^{げんや}

ヨイく

大和男子^{やまとおのこ}の 大和男子^{やまとおのこ}の死所^{しじどころ} サテ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

ヤートナソレヨイヨイヨイ

【注】敦化・新京・白頭山…満洲の地名。

7、鏡泊湖守備隊歌

成立年代…一九三二年頃／作詞…吉良守備隊長／作曲…吉良守備隊長

【解題】作歌の「吉良守備隊長」は、鏡泊学園の守備隊長を務めていた「日本軍敦化独立守備隊松音溝（松乙溝）分散配置隊」所属の「吉良少尉」（『鏡泊』二巻三号、満洲鏡泊学園本部、一九三四年九月一日）を指し、鏡泊学園職員・学生らの護衛にあたった人物である。一九三四年五月一七日に鏡泊学園一行が匪賊の襲撃に遭い、山田梯一ら学園関係者と守備隊員五名を含む一四名が落命するが、吉良守備隊長はこの時随行しておらず、捜索隊として遭難現場へ向かっている（「満洲鏡泊学園山田総務以下十三名ノ遭難詳報 昭和九年五月二十六日」）。

①『鏡泊』二巻四号（満洲鏡泊学園本部、一九三四年一

〇月一五日）楽譜なし

鏡泊湖守備隊長歌

作歌 吉良守備隊長

一、山紫に水清く 黎明の地の鏡泊に

守備する我等は神州の血潮を受けし若武者ぞ

二、正義を守り人道の 仇なす奴輩を攻め討てと

胸に流るゝ赤き血に虫の情を蔵すなり

三、敦化離れて三拾里 誓ぞ固き三十四士

討つも攻むるも一筋に尽すは君と国の為

四、寒夜に立てる歩哨陣 炎暑に耐ゆる強襲も

日満和平の実現に勇み進まんいざ共に

五、鏡泊の地に半余歳 我等守備せし甲斐ありて

日の大御旗空高く かゝげて帰る時ぞ今

Ⅲ 学生歌集

主に一九六〇～一九八〇年代において、学生・生徒の間で歌い継がれてきた歌を収載した。その多くは、当時の流行歌に学生の生活情景や心情を詠み込んだものである。基本的に上級生から下級生へと口伝されるため、印刷物などのかたちで文字化される機会も少ないことから、現存する歌詞の細部には差異も多い。また大学名などを変えて、他大学でも同様に学生間で流布した歌も多い。

1、**国士館数え歌**（一つとせ一日二日はびんたで暮す…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】大学数え歌の一つ。

①国士館関連唱歌歌詞一括（作成年不明）楽譜なし「資料番号7374」

国士館関係歌の歌詞が列記された一括資料の一紙で、一九九〇年代に職員佐々木宗興が粗年表作成のために収集使用したもの（粗年表編集資料）。本資料は複写コピー

に佐々木ほか複数人の後筆・訂正跡がある。

国士館数へ歌

ひとつとせ一日二日はびんたで暮す
三日四日五日は猛稽古

二つとせ二人歩きはよいけれど
上級生に見つかつてびんた七つ

三つとせ見れば見る程よい男
紋附姿のいきな事

四つとせ酔てうた、ねからいびき
天下取る日を夢に見る

五つとせ何時も渋谷でごろをまく
国士むそうと人はいう

六つとせむりに出された勇士稽古

でなけりや点呼がおそろしい

七つとせ何も知らない新入生
色けづいたか二年生

八つとせやばなけんかはよしましよう
米英相手の大げんか

九つとせ国士学徒のよい処は
稽古帰りのみだれ髪

十つとせ十迄数へた数へ歌
歌つてちょうだい

世田谷の娘さんよ

2、国士館五万節（国士館出てから十余年…）

成立年代…一九六一年／作詞…不明／作曲…萩原哲晶

【解題】原曲は、ハナ肇とクレージーキャッツのシングル曲「五万節」（作詞青島幸男、作曲萩原哲晶）。

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一

日二刷）

国士館五万節
こくし かんご まんぶし

一、国士館出てから十余年
こくし かんご じゅうよねん

今じゃ会社の大社長
いま かいしゃのだいしやちやう
ヨイシヨ一

腕に脂の乗る頃にや
うで あぶらののころ
首切る社員が五万人
くびき しやいん にごん
ヨイシヨ一

（以下同じ）

二、国士館出てから十余年

今じゃ国士館の名教授
いま くにきんのかみけうじゆ

真昼のサイレンなる頃にや
まひる さいれんなるきにや

いねむる学生が五万人
いねむる がくせい にごん

三、国士館出てから十余年

今じゃ満州の総裁で
いま まんしゅうのそうざい

一度酒宴を張る時にや
ひとたびしゆえんをは

侍る芸者が五万人
はべ げいしや にごん

四、国士館出てから十余年

今じゃ海軍の元帥で
いまた かいぐん げんすい

怒涛逆巻く波を蹴りや
どとうさかま なみ け

ひれふす毛唐が五万人
けとう にごん

3、寮生哀歌（国士館ブルース）（身から出ましたさび故に…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は、軍隊生活の辛さなどを歌った兵隊節・軍隊小唄の「可愛いスーチャン（スーチャン節）」。その替え歌として一九七〇年代に「練鑑（ねりかん）ブルース」など、その地域の少年鑑別所での生活を詠んだ歌が若者の間で流行した。なお「練鑑」は練馬にある東京少年鑑別所の俗称である。その歌詞に、大学や寮生活・部活動での日常を置き替えて歌ったもので、多くの派生形が存在し、それぞれに歌詞が異なる。

①国士館歌集綴（一九八九年頃・鈴木篤旧蔵資料）「資料番号5088」楽譜なし

寮生哀歌

一、身みから出でましたさびゆえに 人ひとの恐こわがる国士館こくしかん
入はいったわが身はよいけれど かわいいいの子こ
と泣なきわかれ。

二、朝あさは早はやから起おこされて 便所べんじょそうじやふきそう
じ いやな先輩せんぱいにどなられて 泣き泣き過ひぐす日ひの
長ながさ。

三、ラーメン食たべるひまもなく 消灯しょうとうラッパ鳴なりひ
びく 五尺ごしゃくの寝台しんだいわらぶとん これがおいらの夢ゆめの床とこ

四、人里ひとざと遠とほく離はなれては 面会人めんかいにんとてさらになく
ついた手紙てがみのうれしさよ かわいいあの子この筆ふで
のあと

五、いいぞ いいぞと進すすめられ 何なにも知らしずに来きて

みれば
朝あさから晩ばんまでしごかれて 月日つきひのたつのも夢ゆめの
内

六、部屋へや長ちやうさんは仏様ほとけさま おこった姿すがたはえんま様
あとの先輩せんぱい鬼おにの様よう 今日きょうも正座せいざのうちあせ

七、郷里ふるさと遠とほく離はなれては 思おもい出だします 父ちちと母はは
く会あいたい 今いますぐ 帰かえつちやならない身みの修業しゆぎやう
今いますぐ 父ちちと母はは 早はや

八、めでたく四年よんねん修業しゆぎやうして かわいいあの子こは人ひとの
妻つま 世間ようすの様子は変かわつても 寮りやうの思おもいでいつまでも

②替え歌歌詞（一九八〇年頃、松本吉英旧蔵資料）「資
料番号21209」

松本吉英（一九八四年体育学部卒）氏の自筆メモで、
横書用の「国士館大学卒業論文用紙（原稿用紙）」に書
かれている。松本は在学中の同時期に、この歌と若干歌

詞の異なる三パターンの歌詞を書き残している。松本は体育学部在学中に陸上競技部に所属したため、陸上部版の歌詞も存在する。歌詞中の「○○」には、その時々に対戦またはライバル視した校名などを入れて歌っていた。

(タイトルなし)

一、身からできましたさびゆえに

人の嫌いやがる国士館

はいつた我身は良いけれど

かわいいあの娘こと泣き別れ

二、俺おれは士館しんの新入生しんじゅうせい

御客おきやくさん扱いあつかいだいいのかな

掃除洗濯そうじせんたくしないのに

飯めしはたらふく食くっている

三、俺はなは士館しんの新入生しんじゅうせい

話はなしが一変いっぺんしてしまい

あいさつ掃除そうじお使いと
汗あせにまみれて走はしってる

四、士館めいぶつりくしゅうぶ名物陸上部

この世よに地獄じごくがあるうとは

夢おもにも想おもわぬ女学生じやがくせい

それならおいらが教おしえましょ

五、朝も早あさよから起こされて

トイレ掃除そうじにふき掃除

嫌いやな先輩せんぱいに怒鳴どなられて

泣き泣き暮くらす日の長さ

六、観迎(観かんげい)会かいだよ一回生いっかいせい

飲のめない酒さけを流ながしこみ

あけて飲のんだらまたあけて

朝あさになつたら素裸すだか

七、松陰神社しょういんじんじやの松まつの木きに

枝えだもないのに登のぼらされ

松の木抱いて蟬のまね
こんな姿を見せりよか

八、寮に帰れば先輩に

こき使われて歩いてる
寝る暇なしに働いて
気付いてみたら朝練習

九、朝もはよから一回生

酔って帰った先輩が
包丁持って意気がって
ついでに殴って寝ろという

十、朝は遅刻の一回生

昼はいねむり一回生
席についたら寝てしまい
先生も飽きれて寝てしまう

十一、うさを晴らそう一回生

〇〇相手に殴り込み

ついでにマッポとケンカして
着いた所が豚箱だ

十二、俺は士館の一回生

胸のジャバラを引き締めて
街を歩けば人々が
俺の為に道あける

③替え歌歌詞（一九八〇年頃、松本吉英旧蔵資料）「資

料番号21210」

前掲②と同じく松本吉英（一九八四年体育学部卒）氏の
筆で、市販の横罫レポート用紙に書かれたものである。

（タイトルなし）

一、俺は国士館の入学生

御客さん扱いだいいのかな
掃除洗濯しないのに
飯はたらふく食っている

二、俺は国士館の入学生

話が一変してしまい

あいさつ掃除お使いと

汗まみれで走ってる

三、^④勸迎会だよ一回生

飲めない酒を流しこみ

空けて飲んでまた空けて

朝になったら素裸

四、俺は国士館の一回生

胸のジャバラを引き締めて

街を歩けば人々が

俺の為に道開ける

五、寮に帰れば先輩に

こき使われて歩いてる

寝る暇なし働いて

気付いてみたら朝練習

六、朝も早から一年生^{いちねんせい}

酔って帰った先輩が

点呼^{てんこ}だぞと意気がって

ついでに殴って寝るという

七、朝は遅刻の一回生

昼も遅刻の一回生

席についたら寝てしまい

先生飽きれて寝てしまう

八、気晴らしだ一回生^{きば}

〇〇^{マッポ}相手に殴り込み

ついでに警察とケンカして

着いた所が豚箱だ

④替え歌歌詞（一九八〇年頃、松本吉英旧蔵資料）〔資料番号21210〕

前掲③と同資料で松本吉英（一九八四年三月体育学部卒）氏による筆。

国士館ブルース

こんな姿を見せらりよか

一、身から出ましたさびゆえに

人の嫌がる国士館

入った我身は良いけれど

カワイイあの娘と泣き別れ

二、士館名物陸上部

この世に地獄があろうとは

夢にも想わぬ女学生

それならおいらが教えましょ

三、朝も早よから起こされて

便所掃除して吹き掃除^(拭・ふ)

嫌な先輩に怒鳴られて

泣き泣き暮らす日の長さ

四、松陰神社の松の木に

枝もないのに登らされ

松の木抱いて蟬のまね

4、一回生ブルース（東京名物数あれど…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解説】「Ⅲ-3、寮生哀歌（国士館ブルース）」の派生形と推測される。

①替え歌歌詞（一九八〇年頃、松本吉英旧蔵資料）「資料番号21209」

松本吉英（一九八四年体育学部卒）氏の自筆メモで、

横書用の「国士館大学卒業論文用紙（原稿用紙）」に書

かれる。

（タイトルなし）

一、東京名物数あれど^{とうきょうめいぶつかず}

数ある中^{なか}のその中に

泣く子も黙る松陰寮^{なこだましよういんりょう}

その名ぞ天下^{なてんか}の国士館^{こくしかん}

二、今日も屋上に正座して

鬼の2年にどつかれて
ぐつとこらえりやでる涙
泣きべそかくのは一回生

三、今日も練習またしごき

正座かやきかこま使い
休む暇なくせこせこと
べソかく奴隷は一回生

四、寮の窓から空見れば

星がきらきら呼んでるぜ
遠い故郷を想い出し
ベットで泣くのは一回生

五、町で見かけたカッブルを

指をくわえて眺めてた
そんなせつない想いでも
女はいらない一回生

六、ついに来ました夏休み

地獄の寮とおさばらさ
やつと自由になれるんだ
早く会いたいおふくろに

5、水泳部ブルース（知らぬこととは云いながら…）

成立年代…不明（一九七〇年代）／作詞…不明／作曲…不明

【解説】「Ⅲ-3、寮生哀歌（国士館ブルース）」の派生形と推測される。

①応援部手帳（応援部、一九九七年）楽譜なし

国士館高等学校応援部の手帳。一部の歌には楽譜あり。

水泳部ブルース

一、知らぬこととは云いながら、

好きで入った水泳部
足をふみ入れ 気がついた、
これが国士の水泳部

二、1 にあいさつ、2 に礼儀

3・4 がなくて 5 にパシリ先輩たてて さからわず、

これが国士の水泳部

三、夜中の0時に とび起きて、

バッグをかついで神宮へ
一番のりでかけつける、

これが国士の水泳部

四、体を動かす 1年生、

頭をつかう 2年生

口だけ動かす 3年生、

これが国士の水泳部

五、いやだ いやだの1年間、

やつと一息 2年生

もうすぐ卒業 3年生

我らが国士の水泳部

我らが国士の水泳部

6、狼の歌〈風雲児〉（男一匹やるだけやれば…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

①第二回歌唱祭プログラム（楓門祭実行委員会・歌唱祭

運営委員会、一九八五年一月三日）楽譜なし

この歌は「風雲児」ともいい、大学名を替えて他大学
でもよく歌われていた。

狼の歌

作詞・作曲不詳

一 男一匹やるだけやれば、

なんのこの世に未練がありよか

吹けよ竜巻アルタイ越えて

俺も行きたや命をかけて

二 胸に秘たる男の夢は、

女なんかにやわかろうものか

あごでしゃくろか小指でやろか

馬賊三千砂塵を巻いて

三 俺が死んだら裸のまま

ゴビの砂漠にうつちやつておくれ

どうせ俺らにや狼の血が

親の代から流れているのだ

四

北に輝く北斗の星と

南に輝く南斗クロス

あ、大亜細亜皇御国に

天下治める国士館

7、国士館豪気節（一つとせ 人に知られた国士館…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】「豪気節」という数え歌の一つで、全国の高校・

大学・寮などで歌詞を替えて歌われていた。ここに挙げ

た歌詞では略されているが、各番の最後に「そいつは豪

気だね」を繰り返す（いわゆる合いの手）。「Ⅱ 5、鏡

泊学園数え歌」「Ⅲ 1、国士館数え歌」も参照。

①国士館関連歌詞一括（作成年不明）楽譜なし「資料

番号7374」

国士館関係歌の歌詞が列記された一括資料の一紙で、

一九九〇年代に職員佐々木宗興が粗年表作成のために収

集・使用したもの（粗年表編集資料）。本資料は複写コピー

に佐々木ほか複数人の後筆・訂正跡がある。

国士館豪気節

一つとせ 人に知られた国士館

誠意と気魄の国士館

そいつは豪気だね

一つとせ 二親見捨て、風雲の

亜細亜全土に吼ゆる身は

一つとせ 見よ松陰の森深く

そびゆる天下の国士館

一つとせ よしも、あしきも、あるものか

色気、しゃばけを捨てて身が

五つとせ 意気に溢る国士館

にやけた野郎はぶんなくれ

六つとせ 無理もへちまもあるものか

アジアの嵐に散る身には

七つとせ 何はなくとも国の為

捨てる命が一つある

八つとせ やがてはでかすぞこの腕だ

御威稜普の大亜細亜

九つとせ 此処は天下の国士館

豪傑国士の大道場

十つとせ とうとう国士館卒業すりや

末はアジアの大統領

そいつは豪気だね

繰り返し

【注】 御稜威（みいつ）…天皇の威光

8、花の御江戸の国士館（花の御江戸に立つ時は…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は不明だが、同じような歌詞の歌が各地の大学で歌われている。大阪商業大学「商大節」・國學院大学「国大小唄」など。

①替え歌歌詞（一九八〇年頃、松本吉英旧蔵資料）「資料番号21209」

松本吉英（一九八四年体育学部卒）氏の自筆メモで、横書用の「国士館大学卒業論文用紙（原稿用紙）」に書かれる。歌詞中の○○○○や「」表記部分には、適宜の詞を用いて歌われる。

花の御江戸の国士館

一、花の御江戸に立つ時は

袖にすがつて恋人が
お願いだからそれだから
出世してねと泣いていた
泣いていた

二、泣いて離れてまた泣いて
入った学校が国士館
士館だからそれだから
陸上やりやり酒を飲む
酒を飲む

三、酒を飲み飲み陸上して
〇〇〇〇したならば
早く故郷に帰ってね
私それまで待つてゐるわ
待つてゐるわ

四、かわいいあの娘に励まされ
苦節こうなる四年間
めでたく卒業する時は

「 (マ) 」

9、ツンドカドカドカ（渋谷の国士か国士の渋谷か…）
成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

①国士館歌集綴（一九八九年頃、鈴木篤旧蔵資料）楽譜
なし、手書き「資料番号5088」

一九八〇～一九八九年頃に鈴木篤（一九八二年法学部
卒）氏が収集した国士館に関する歌の一括資料のうち
ノート。この歌は歌詞のみノートに手書きされており、
楽譜はない。

ツンドカドカドカ

渋谷の国士か国士の渋谷か
肩で風切るヤクザ者
勢な紋附サンダラバキで

今夜又出る点呼前

ツンドカドカドカ

ツンドカドカドカ

此処で分かれちや未練が残る

せめて正気寮の前迄も

送りましょうか送りましょうか

甲州街道 道恋道

10、国士大恋歌（酒に對して まさに唄うべし…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】前半は『三国志演義』で曹操が赤壁の戦いの際に詠んだと言われる「短歌行」という漢詩を一部改変したものの。後半は「狼の歌」と一部の歌詞が似るが、関連不明。「〇〇大恋歌」と大学名を入れて各地の大学で歌われている。

①『国士館健児熱血歌唱祭（プログラム）』（国士館健児熱血歌唱祭実行委員会、一九八五年頃）楽譜なし

国士大恋歌

台詞

酒に對して 真に唄うべし

人生幾ばくぞたとえは朝露の如し
忘るる日々ははなはだ多し

されどうるわしき日々は忘れがたし
何を思つてか愛をとかん

酒は飲むべし百薬の長
女は抱くべし一夜の快樂

いざ唄わんかな
国士大恋歌を

一、もしも俺が死んだなれば
俺の骨と拳銃を

ゴビの砂漠にうつちやつておくれ

二、如何に時節が変わりようとても
俺の行く道はただひとつ

ごたくならべたシヤバにやあ縁も
みれんもないさこの俺にや

三、俺に大義があるなれば
千万人とても我行かん

俺の故郷の国士館にや
男ばかりが住むという

11、突撃音頭（皆さん／＼選手の後で…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は、戊辰戦争の際に新政府軍が唄ったといわれている「宮さん宮さん（トシヤレ節）」。応援団による作詞と思われる、応援の際によく歌われた。

①LPブック『国士』（一九七四年一月二六日、柴田徳

次郎一周忌記念制作）楽譜なし

突撃音頭

一、皆さん／＼選手の後で

ヒラヒラするのはなんじやいな

トコトンヤレトンヤレナー

二、あれは強敵征伐せよとの

応援団旗じゃ知らないか

トコトンヤレトンヤレナー

三、国士の選手に向かうるものを

撃滅させるは応援団

トコトンヤレトンヤレナー

12、国士館小唄（国士館節）（春が来たかよ国士のお庭

に…）

成立年代…一九六五年以降／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は一九六五年発売の「ステテコシャンシャン」。お座敷や盆踊りなどで広く歌われてきたが、一九八〇年代に日清・どん兵衛のCMソングとして使用されたことでもおなじみの歌。一九七四年制作のLPブック『国士』に音源が残る。

①応援部手帳（応援部、一九九七年）楽譜なし

国士館小唄

春は桜に国士館

ぱつと咲いた桜花さくらばな

あの娘を思えばついほろりおも

夏は蛍に国士館なつ ほたる

ぱつと消えてどこへ行くき

あの娘を探しに俺は行くさが おれ

秋は紅葉に国士館あき もみじ

はらりと散った紅葉ち もみじ

愛し恋しあの娘の手いと こい

冬は雪に国士館ふゆ ゆき

あの娘を忘れて寒稽古わす かんげいこ

一、春が来たかよ、国士のお庭に ヨオコリヤはるがきたかよ、こくしのおにわ

桜咲いた咲いた、ステテコシャンシャン

ドンブリバチャ浮いた浮いた、ステテコシャン
シャン

二、夏が来たかよ、国士のお庭に ヨオコリヤ

蛍飛んだ飛んだ、ステテコシャンシャン

ドンブリバチャ浮いた浮いた、ステテコシャン
シャン

三、秋が来たかよ、国士のお庭に ヨオコリヤ

紅葉散った散った、ステテコシャンシャン

ドンブリバチャ浮いた浮いた、ステテコシャン
シャン

四、冬が来たかよ、国士のお庭に ヨオコリヤ

雪が降った降った、ステテコシャンシャン

ドンブリバチャ浮いた浮いた、ステテコシャン
シャン

13、国士館節（士館節・国士館数え歌・応援団節）（此

処は武蔵か世田谷町か…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は不明だが、歌詞を変えて各地の大学で歌い継がれている。合間に入る合いの手が、「コーリヤコリヤコリヤ」（国士館節など）と「サノヨイヨイ」（応援

団節)がある。「Ⅲ-9、ツンドカドカドカ」と同じ曲か。

① 国士館歌集綴 (一九八九年頃、鈴木篤旧蔵資料) 楽譜なし、手書き [資料番号508]

一九八〇～一九八九年頃に鈴木篤 (一九八二年法学部卒) 氏が収集した国士館に関する歌の一括資料のうち一紙 (ノートの複写物)。

此々は武蔵か

一、此々は武蔵か世田谷町か
世田谷町なら大学国士

二、大学国士の学生さんは
度胸を一つの男だて

三、度胸一つで皇国の道を
歩いて行きます紋付姿

四、紋付姿は国士の育ち

ぼろはおいらの旗印

五、ぼろはまどえど心は綿
どんな者にも恐れはせぬぞ

六、どんな者にも恐れはせぬが
可愛いあの娘にやかなあいはせぬぞ

七、可愛いあの娘は何時でも捨て
皇国の為なら命までも

八、命捨てても名前が残る
殉国国士の名前は残る

② 「言道歌集」六号 (大学言道部、一九七〇年七月一〇日)
国士館節の言道部版。手書き、楽譜なし。

(タイトルなし)

此処は世田谷か松陰の町か

松陰の町なら大学は国士

大学国士の学生さんは

度胸一つおとくだての男伊達

度胸一つで世田谷町を

歩く姿は紋付袴もんつきはかま

紋付袴は国士の育ち

襷たすきを纏まとえど心(綿・にしき)は綿

男伊達なら命はおろか

勢いさんで捨てますあの女の為なら

襷たすきを纏まとえど心(綿)は綿

御国おくにの為なら命を捨てる

御国の為なら命を捨てる

大学国士のその名を残す

序ついでに言道部げんどうぶのその名を残す

14、国士館こくし館かん（士館し館かん）（士館しよいとこ誰たれいうた…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解説】三番の歌詞の後に「館長先生が許さねば みど

りの黒髪断ち切って 男姿に身をやつし ついて行きま

す国士館（何処までも）」が入るパターンもある。

①国士館歌集綴（一九八九年頃、鈴木篤旧蔵資料）楽譜

なし、手書き「資料番号5088」

一九八〇～一九八九年頃に鈴木篤（一九八二年法学部

卒）氏が収集した国士館に関する歌の一括資料のうち一

紙（ルーズリーフ）にペン書き。

士館し館かん節

一、士館し館かんよい所誰と言いった

松陰神社しょういんじんじやのその中なかに

粹いきな学生がくせいが居いるといふ

一度は惚ほれてみたいもの

二、胸むねのジャバラにしがみつ

連れて行いきやんせ国士館こくしかん

連れて行いくのはやすけれど

女おんなの座すわる席せきはない

三、座すわる席せきがないならば

せめてあなたのひざの上うへ

共に許した仲ならば
館長先生も許すたる

四、中学高等学校と

入学してから卒業まで
どうせ来るなら国士館
一度は惚れる銃剣道

15、国士館節（士館節）（男度胸はノーエ…）

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は民謡。「ノーエ節」などの名前で各地に似た民謡が存在する。

①LPブック『国士』（一九七四年一月二六日、柴田徳

次郎一周忌記念制作）

士館節

一、男度胸はノーエ 〈

ノーエのサイサイ

男は国士の応援団

二、国士の応援団はノーエ 〈

ノーエのサイサイ
応援団は女にもてる

三、女にもてるはノーエ 〈

ノーエのサイサイ
もてるは男にもてる

四、男にもてるはノーエ 〈

ノーエのサイサイ
羽織袴

五、羽織袴はノーエ 〈

ノーエのサイサイ
羽織は先輩ゆずり

六、先輩ゆずりはノーエ 〈

ノーエのサイサイ
ゆずりは俺達心

②「言道歌集」六号(大学言道部、一九七〇年七月一〇日)

国士館節^{こくしかんがふし}

七、俺達心はノーエ く

ノーエのサイサイ俺達心は丸い^{まる}
国士押忍^{オス}、国士押忍、国士押忍

一、男度胸は ノーエ

男度胸は ノーエエエ
ノーゲノサイサイ^(原文ママ)
(以下略)
男は国士の言道部^{げんどうぶ}

二、国士の言道部は

国士の言道部は
言道部女にもてる

三、女にもてるは

女にもてるは
もてるは男にもてる

四、男にもてるは

男にもてるは
もてるは羽織袴

五、羽織袴は

羽織袴は
羽織袴は先輩ゆずり

六、先輩ゆずりは

先輩ゆずりは
ゆずりは俺達心

七、俺達心は

俺達心は
俺達心は丸い

16、国士館節(麻と乱れる天下治め コリヤく…)

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】原曲は民謡か。各地の大学で歌詞を変えて歌われている。

①国士館関連歌詞一括（作成年不明）楽譜なし「資料
番47374」

国士館関係歌の歌詞が列記された一括資料の一紙で、
一九九〇年代に職員佐々木宗興が粗年表作成のために収
集・使用したもの（粗年表編集資料）。本資料は複写コピー
に佐々木ほか複数人の後筆・訂正跡がある。

国士館節

一、麻と乱れる天下治め コリヤ／＼

国を安むる国士館

ヨイ／＼国士館

二、何はなくとも君国の為

捨てる命が一つある

三、まかりちがえは白装束で

白木三宝にや九寸五分

四、桜花咲く日本の国で

文武鍛えし大丈夫

五、大和男児の真心問へば

抜けば玉散る日本刀

六、優柔不断は男の恥よ

腰の黒帯は伊達でない

七、どうせ死ぬなら桜の下で

死なば屍に花が散る

八、モダンづくならゆずりもしようが

腕と度胸じや譲りやせぬ

九、死ぬも生きるも一億万が

君に尽すを忠と云う

十、誠意、勤労、見識、気魄

これが天下の国士館

十一、木綿紋もめんもんつき附伊達には着きない

魔まよけ、虫むしよけ、女おんなよけ

ヨイ／＼ 国士館

分は削除されるなどしている。

国士館こくしかんデカンシヨ

【注】白装束・白木三宝・九寸五分…切腹を示す語、

白装束で短刀を置いた三宝（供物台）のこと。

17、国士館デカンシヨ

成立年代…不明／作詞…不明／作曲…不明

【解題】元は民謡の学生歌。詞を変えて広く歌われている。

国士館デカンシヨの内容や順番、数は、掲載物や版により違う場合がある。

①『国士館朗吟集』（安藤尚志・内田輝光編、一九六一年

九月二三日初版）楽譜なし

和歌や漢詩などを集めた小冊子で、何度か重版されている。館長訓話などで利用された。国士館デカンシヨの数と順番は版により違いがあり、例えば重版では「酒と踊りで世界を知らず…」など時代に相応しくない表現部

誠意、勤勞、見識、気魄、これが天下の国士館。
讀書、体験、反省しつつ、たへず励むが国士館。
起ち居振る舞ひすべての動作、神速、正確、国士館。
言葉、服装はたから見ても、高雅、質実国士館。
塵や埃は見たくも見れぬ、これが天下の国士館。
麻と乱るる天下を治め、国を靖むる国士館。
麻と乱るる天下（を）治め、民を安むる国士館。
広い世界を旭の旗の、風に靡かす国士館。
煙あがれば必ず火有り、煙迷いで火は悟り。
迷ひの煙を飽くまであふげ、ぱつと悟りの火があがる。
一度ついたら悟りの火種子、吹いて虚空を焼き尽せ。
小さい体裁少しの不平、がらり投げ捨て働かう。
真に心の平和の風は、義務を果した胸に吹く。
シヤベル採つても人後に落ちぬ、自信さえありや大丈夫。

広い世界に日本の外に、外国かぶる馬鹿はない。
 槿花ゆえあり三千年の、国の歴史がただあるか。

官僚さなだ虫、国民蛔虫、力併せて国潰す。

井戸の蛙で内輪の喧嘩、世界の縁日売れるぢやろ。

水で威張った琵琶湖の鮎も、津波の塩水何とする。

酒と踊りで世界を知らず、今じゃ見世物インディア
 ン。

職に雑多の差別あれど、人格平等新日本。

奇妙不可思議日本の書生、上に行く程馬鹿になる。

どうかならうでその日を暮す、歩くミイラのいじらしさ。

陽気、活潑、冒險、敢為、これがアメリカ国民性。

我慢、分別、質実、自尊、これがイギリス国民性。

射利と面子、忍従、自大、これが中国国民性。

誑詐、残忍、強奪、暴行、これがソ連の支配層。

俺の目玉の光れるうちは、国歩艱難何のその。

俺と交わる男でなけりや、真の男たあ言はせない。

智慧と誠意で足並そろや、天下に冠たる日本国。

意気が旺んで誠意であれば、天下成らざる事やある。

何はなくとも君国の為め、捨つる命が一つある。

我は努めず他人の事を、けなす心が国の賊。

人を云ふより我れ働かん、天下は働く人のもの。

草履とりとり藤吉郎は、いつの間にやら天下取り。

馬鹿と怠けが一番こわい、家も国家も身もつぶず。

二度と再び生れぬ命、天地狭しとさあやろう。

裸一貫神智を宿し、世界相手の大相撲。

己が曲直他人を待たず、神と二人でさばき去れ。

人にさばかれ白黒云うは、馬鹿の程度の知れぬ奴。

露も愚かな我身と知れば、神の心になれるもの。

命かけたる男児の業は、天地裂けても滅びない。

人の向背意とする勿れ、耶穌も宗吾も一人駆け。

楠氏一度大義を説けば、木挽山賊皆義軍。

大和男の児の真心問へば、抜けば玉散る日本刀。

大和乙女の真心問へば、匂ふ吉野の山桜。

【注】 槿花（きんか）…ムクゲや朝顔の花、儂い栄

華の例え。／藤吉郎…豊臣秀吉。／耶穌…イ

エス・キリスト。／宗吾…佐倉惣五郎。

②『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一日二刷）

国士館デカンショ節^{ぶし}

一、誠意、勤勞、見識、気魄ヨイヨイ

これが天下の国士館

ヨイヨイデッカシヨ（以下同じ）

二、怠け臆病^{おくびよう}は見たくも見れぬ

これが天下の国士館

三、麻と乱るる天下を治め

民を安むる国士館

四、広い世界を旭の旗で

風に靡かす国士館

18、国士館同志会デカンショ・オリンピックデカンショ

成立年代：一九六四年頃／作詞：（国士館同志会）／作曲：

不明

【解説】一九六〇年三月の体育学部第一回卒業式にあわせて、現「大学同志会」の前身となる同窓組織「同志会」が発足した。本歌は、歌詞の内容から一九六四年開催のオリンピック東京大会の直前に、同志会によって作成されたものと推定される。一九六四年の東京五輪に国士館出身の選手は出なかったが、印刷物で配付された本歌が関係者間に親しまれたものと思われる。

①「国士館同志会デカンショ オリンピックデカンショ」

（国士館同志会、一九六四年頃）〔資料番号1317〕

わら半紙に二種のデカンショが、ガリ刷で印刷されている。

◎国士館同志会デカンショ。

俺^{おれ}が勝^かつのはデッカイ試合^{しあひ} ヨイく

国^{くに}と国^{くに}との大勝負^{おおしょうぶ} ヨーイく デッカシヨ

科学^{かがく}教育^{きょういく}、道徳^{どうとく}、軍備^{ぐんび}

それに産業五種試合

ソ連、アメリカ相手に廻し
智恵と度胸の大試合

国と国との試合に勝つは
国民一億総選挙

◎オリンピックデカンシヨ。

オリンピッククを迎ゆるからは
目ざせ日の丸金メダル

オリンピッククを迎ゆる前に
無くせ赤旗デモ騒ぎ

IV 愛唱歌

主に一九六〇―一九八〇年代において、全国の学生・生徒に好まれ歌われた歌のうち、国士館学生がよく愛唱

した代表的な歌を掲載した。

1、蒙古放浪の歌（心猛くも鬼神ならぬ…）

成立年代…昭和初期／作詞…不明／作曲…不明

【解題】「蒙古の歌」「蒙古放浪歌」とも。昭和初期の流行歌だが、それ以前から存在しており成立時期などは不詳。学生に好まれ、各地の大学で歌われていた。

最後に「五、負はす駱駝の糧薄けれど 星の示せる向だに行けば 砂の逆巻く嵐も何ぞ やがては越えなん蒙古の砂漠」と続くパターンもある。

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一日二刷）

もうこほうろう
蒙古放浪の歌

一、心猛くも鬼神ならぬ

ひとと生まれて情はあれど
母を見捨て、波越えて行く
友よ兄弟よ何時又逢わん

二、海の彼方の蒙古の砂漠

男多恨の身を捨て処

胸に秘めたる大願あれど
生きて帰らぬ望みは持たぬ

三、朝日夕日を馬上に受けて

続く砂漠の一筋路を

大和男子の血潮に染めて
行くや若人千里の旅路

四、砂丘に出でて砂丘に沈む

月の幾夜か我等が旅路

明日は何辺か見えすば何処
水を求めん蒙古の砂漠

2、人を恋うる歌（支那浪人の歌）（妻をめとらば才た

けて…）

成立年代…不明／作詞…与謝野鉄幹／作曲…不明

【解題】与謝野鉄幹の詩をもとに、島崎藤村の「醉歌」
などが加わって、長いものでは三九番まで歌詞が続くも

のもある。三高（現京都大学）寮歌でもあり、明治期か

ら全国的に愛唱されていた（『歌集 国士』倉田勝彦編、

私家版、一九八〇年二月一日初版、一九八二年十一月

三日改訂）。

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一

日二刷）

人を恋うる歌（支那浪人の歌）

一、妻をめとらば才たけて

みめうるわしく情あり

友を送らば書を読みて
六分の俠気四分の熱

二、恋の命をたずぬれば

名を惜むかな男の子故

友の情をたずぬれば

義のあるところ火をも踏む

三、嗚呼我ダンテの奇才なく

バイロンハインの熱なきも

石を抱いて野に歌う

芭蕉の寂びは喜ばじ

四、三度び玄海の波を越え

唐の都に来て見れば

秋の日悲し王城や

昔にかわる雲の色

【注】ダンテ：イタリア・フィレンツェ出身の詩人・

哲学者・政治家。／バイロン：イギリスロマ

ン派の詩人。／ハイン：ドイツロマン派の詩

人。

3、男度胸〈流砂の護り〉（男度胸は銅の味よ…）

成立年代…一九三七年／作詞…柴室代介／作曲…佐藤富

房

日二刷）

別名「流砂の護り」とあるように、三番歌詞は一般的には「流れ沙（砂・すな）」であり、「流れ網」となっているのは誤記である。なお、三番歌詞冒頭の「背い子」は「背囊（はいのう）」と表記する資料もある。

男度胸

一、男度胸は銅の味よ

伊達にやささない腰の剣

抜けば最後だ命を儲けて

指をさ、せぬ此の守り

二、流れ豊かな黒竜江よ

岸の繁みは我が住家

水を鏡に髭面刺れば

満洲娘も一目惚れ

三、可愛背い子の枕の下に

今朝も開いた名無し草

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一

千里^{せんり}続^ついたこの流^{なが}れ網^{（ゆ）}
国の光^{くに}で花^{ひかり}が咲^{はな}く

4、男なら（男なら男なら…）

成立年代…一九三七年／作詞…西岡水朗／作曲…草笛圭
三

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一日二刷）楽譜なし

男なら

一、男なら男なら

暗^{くら}い浮^{うき}世^よの荒波^{あらなみ}風^{かぜ}も
何^{なに}が恐^{こわ}から男^{（マ）}ならば
たとえ嵐^{あらし}が吼^ほえようとまゝよ
散^ちつちやいけない花^{はな}と咲^さけ

二、男なら男なら

可愛^{かわい}いあ^この娘^{わが}と別^{わか}りよまゝよ

何^{なに}が辛^{つら}かる男^{おとこ}ならば
涙^{なみだ}かくしてこの胸^{むね}張^はつて
ど^ゆんと行^ゆけ行^ゆけやつてみな

5、桜花（咲いた桜が男なら…）

成立年代…一九三八年／作詞…西條八十／作曲…古関裕
而

【解題】軍歌「さくら進軍」をもとにしている。

①『歌集』（国士館大学応援団総務部、一九六三年四月一日二刷）

桜花

一、咲いた桜が男なら

慕^さう胡蝶^{さくら}は妻^{おとこ}じやろう
意^い気^きで咲^さけ桜^{さくら}花^{はな}
広^{こう}直^{ちく}流^{りゅう}布^ふの八^や重^え桜^{くら}

二、大和桜の枝のびて

花は吉野に乱れ咲く

パツと咲け桜花

俺も咲きたや華やかに

三、明日の初陣軍刀を

月にかざせば散る桜

パツと散れ桜花

俺も散りたや華やかに

6、青年日本の歌（昭和維新の歌）（汨羅の淵に波騒ぎ…）

成立年代…一九三〇年／作詞…三上卓／作曲…三上卓

【解説】作詞・作曲は五・一五事件に関与した海軍中將三上卓。歌詞中の詩の多くは土井晩翠と大川周明の著作から引用された。

①国士館歌集綴（一九八九年頃、鈴木篤旧蔵資料）楽譜

なし、手書き「資料番号5088」

一九八〇～一九八九年頃に鈴木篤（一九八二年法学部

卒）氏が収集した国士館に関する歌の一括資料のうち一紙（複写物）。

青年日本の歌

一、汨羅の淵に波騒ぎ

巫山の雲は乱れ飛ぶ

混濁の世に我立てば

義憤に燃えて血潮湧く

二、権門上に驕れども

国を憂うる誠なく

財閥富を誇れども

社稷を念ふ心なし

三、あ人栄え国滅ぶ

盲ひたる民世に踊る

治乱興亡夢に似て

世は一局の碁なりけり

四、昭和維新の春の空

正義に結ぶ益良雄が

胸裡百万兵足りて

散るや万朶の桜花
ち ばんだ さくらばな

【注】汨羅（ベキラ）…中国湖南省の川。／巫山（ふ

ざん）…中国の重慶にある名山。／社稷（しゃ
しょく）…国家。／万朶（ばんだ）…多くの枝。

②「言道歌集」六号（大学言道部、一九七〇年七月一〇日）

昭和維新の歌

一、汨羅の淵に波騒ぎ

巫山の雲は乱れ飛ぶ

混濁の世に吾立てば

義憤に燃えて血潮湧く

二、権門上に驕れども

国を憂うる誠なし

財閥富を誇れども

社稷を思う心なし

三、ああ人栄え国ほろぶ

盲たる民世に躍る

治乱興亡夢に似て

世は一局の墓なりけり

四、昭和維新の春の空

正義に結ぶ（大）丈夫が

胸裡百万兵足りて

散るや万朶の桜花

五、古びし死骸乗り越えて

雲 飄 揺の身は一つ

国を憂いて立つからは

大丈夫の歌なからめて

六、天の怒りか地の声か

その只ならぬ響きあり

民永劫の眠りより

醒めよ日本の朝ばけら

七、見よ九天の雲は垂れ

四海の波は雄叫びて

革新の機は至りぬと

吹くや日本の冬嵐

八、ああうらぶれし天地の

迷いの道を人は行く

栄華を誇る塵の世に

誰が高樓の眺めぞや

九、功名何ぞ夢の跡

消えざるものはただ誠

人生意気に感じては

成否を誰かあげつらう

十、止めよ離騷の一悲曲

悲歌（懐）慨の日は去りぬ

我らが剣今こそは

革世の血に振うかな

十一、（記載なし）

7、馬賊の唄（僕も行くから君も行け…）

成立年代…一九二二年頃／作詞…宮島郁芳／作曲…不明

①「言道歌集」六号（国士館大学言道部、一九七〇年七

月一〇日）

馬賊の唄

一、僕も行くから君も行け

狭い日本にや住みあいた

海のかなたにや支那がある

支那にや四億の民が待つ

二、僕には父も母もなく

生まれ故郷に家もなし

幾年慣れたる山あれど

別れを惜むものもなく

三、ただいたわしの恋人や

幼きころの友人も

どこに住めるや今はただ
夢路に姿をたどるのみ

四、昨日は東 今日以西

流れ流れしうき草の
果てしなき野にただ

ひとり

月を仰いで草まくら

8、その他一覧

資料にみえる愛唱歌は多数のため、紙幅の都合により
主な歌名と解説のみを記す。

(1) ある晴れた日に〈ああ予科練〉（ある晴れた日に俺は
死ぬ…）

一九六八年／作詞・作曲…村上てつや。映画「あゝ予
科練」の挿入歌。

(2) 歩兵の歌（万葉の桜か襟の色…）
一九二一年／作詞…加藤明勝／作曲…永井建子。明治

時代の軍歌で、正式名「歩兵の本領」。

(3) 黒の舟唄（男と女の間には…）

一九七一年／作詞…能吉利人／作曲…櫻井順。

(4) 学徒動員の歌（あゝ紅の血は燃ゆる）（花もつばみの
若桜…）

一九四四年／作詞…野村俊夫／作曲…明本京静。一九
四四年の勤労学徒動員令により制定された戦時歌。正式
名「あゝ紅の血は燃ゆる」。

(5) 惜別の唄（遠き別れに耐えかねて…）

一九四四年／作詞…島崎藤村／作曲…藤江英輔。中央
大学の学生が、嫁ぐ姉との別れを詠んだ島崎藤村の詩を
もとに、「姉」を「友」に替えて作曲したもの。戦後、
全国で愛唱された。

(6) 海行かば（海行かば水漬く屍…）

一九三七年／作詞…大友家持／作曲…信時潔。大友家
持の長歌をもとに、戦時中に国民精神総動員強化週間の
テーマ曲として作った。

(7) 満州エレジー（満州哀歌）（街を離れて野に山に…）

一九四〇年頃／作詞・作曲…不明。満洲開拓者の哀歌。
(8) 黒田節（酒は呑め呑め…）

福岡の民謡。酒宴などでよく歌う。

(9) 同期の桜（貴様と俺とは同期の桜…）

軍歌。一九三八年に発表された「戦友の唄」（作詞西條八十）をもとに、複数の人の手を経て「同期の桜」となる。戦争末期には特攻隊員らの間で歌われた。

(10) 予科練の歌（若鷺の歌）（若い血潮の予科練の…）

一九四三年／作詞…西條八十／作曲…古関裕而。「若鷺の歌」は、映画「決戦の大空へ」主題歌。

(11) 無名の志士を弔ふの歌（無名戦士の歌）（艱難汝を玉にすと…）

年代不明／作…多々良康信（庸信）。軍歌。

(12) 剣道小唄（松は緑に茗荷の森に…）

年代不明／作詞…不明／作曲…古賀政男。一九五二年発売「ゲイシャ・ワルツ」（作詞…西條八十／作曲…古賀政男）の曲に剣道一筋の生きざまを唄った詩を付したものの。

(13) 民族正気の歌（あゝ緑り濃き東海の…）

年代不明／作詞…不明／作曲…不明。

V 私製歌

1、母校を懐う歌

成立年代…一九七六年頃／作詞…武田澁／作曲…武田澁
【解題】武田澁は国士館高等部の第一期卒業生（一九二二年一月卒）で、一九八七年には国士館理事などを歴任した。この歌は武田が一九七六年頃に作成した私製歌である。

①『国を定めるもの―建学の精神―』（武田澁著、学書房

出版株式会社、一九八五年二月一〇日）楽譜あり

同歌は『国士館大学新聞』第一六四号（一九七六年九月二七日）に初出するが、武田著掲載の本歌詞とは若干異なる箇所もある。

母校を懐う歌

作詞・作曲 武田澁

一、広野にとどろく 大太鼓 希望の朝は 明けて
ゆく

豪徳の鐘 松陰の杜 かがやく歴史 正大気み

つ

ああ たのしき母校 国士館

二、紺碧彼方 大空に そびゆ象徴 富士の嶽

自由と気節 清き風 仰ぐ師生の 心境高し

ああ たのしき母校 国士館

三、われ人生に 誓いたる 宇宙つらぬく 覚者の

灯

国の礎 人類の智慧 若き血潮を たぎらせし

ああ たのしき母校 国士館

好！ 国士館

2、その他一覧

このほか『国士館大学新聞』にみえる学生が私製した歌を列記する。いずれも楽譜がなく曲については不明である。

(1) 国士館大学讃歌（なびく日の丸仰ぎ見て…）

『国士館大学新聞』第一〇号（一九六二年四月二七日）

掲載。当時、体育学部三年の田部典夫が作詞。曲の有無は不明。

(2) 国士館応援歌（紅梅春に微笑めば…）

『国士館大学新聞』第一〇号（一九六二年四月二七日）掲載。当時、体育学部一年の兼部邦夫が作詞・作曲したが、楽譜はない。

VI 参 考

1、関連人物

(1) 石川太郎

一九六四年九月頃職員入職（学生監）、一九六四年一月一七日大学吹奏楽部長着任（『会報録』二三号）、石川指揮（部分）でレコード『館歌・寮歌／国士の雄叫び』（一九七〇年三月）・『国士』（一九七四年一月）を発行、一九八一年三月二三日職員在職中（総務部総務課印刷室）に病気のため死去・享年六四。「館歌」ほか国士館の関連歌の編曲を手掛けた。

(2) 宗鳳悦

一九一二年一〇月二日生、一九五〇年三月國學院大学

中退、一九七四年四月一文学部教育学科初等教育専攻
講師着任（声楽・器楽など担当）（昭和五八年度教員調
書）、一九九一年三月三〇日死去・享年七八。

2、「歌集」関連の発行物

①『国士館朗吟集』（安藤尚志・内田輝光編、一九六一年
九月二三日初版、一九六五年三月二七日再版）楽譜な
し

収録歌：国士館館歌／国士館学徒吟／揚子江上に第二
革命戦を見る／明治天皇御製／和歌／詩／国士館デカ
ンショ／漢詩

②『歌集』（国士館大学応援団総務部発行、一九六三年四
月一日二刷）楽譜なし〔資料番号1037〕

収録歌：館歌／第一応援歌／第二応援歌／寮歌／学生
歌（未完成）／応援団節／国士館節／国士館小唄／国
士館デカンショ節／国士館五万節／蒙古放浪の歌／人
を恋うる歌（支那浪人の歌）／男度胸／男なら／桜花

③『国士館歌集』（国士館大学園発行、一九六八年頃）楽
譜なし〔資料番号2358〕

収録歌：国士館々歌／国士館学徒吟／揚子江上に第二

革命（張勳と河海鳴南京攻防）戦を見る（大正二年秋）
／国士館デカンショ

④7インチレコード『館歌・寮歌／「国士の雄叫び」』（館
歌・寮歌の歌詞カード付、国士館大学発行、一九七〇
年三月一〇日）〔資料番号音309〕

収録歌：館歌／寮歌／国士の雄叫び（行進曲）

⑤『言道歌集』六号（大学言道部発行、一九七〇年七月
一〇日）楽譜なし〔資料番号1594〕

収録歌：国士館館歌／言道部部歌／応援歌第一／応援
歌第二／学生歌／学徒吟（寮歌）／桜花／昭和維新の
歌／蒙古放浪の歌／応援歌／国士館小唄／応援歌／国
士館節／馬賊の唄／民族正気の歌／人を恋ふる歌／流
砂の護り／学徒動員の歌／男なら／惜別の詩

⑥LPブック『国士』（編集 国士館大学内昭和四十八
年度卒業生、発行者「国士」刊行委員会、レコード
日本ミュージカラー株式会社、製造株式会社アズマ音
楽工房、一九七四年一月二六日）楽譜なし〔資料番号
音302〕

収録歌：国士の雄叫び（マーチ）／第一応援歌／第二
応援歌／学生歌／応援国士館節／突撃音頭／威風堂々

(マーチ)／国士館小唄／士館節／男度胸／桜花／剣道部部歌／言動部部歌／青年日本の歌／寮歌／館歌／
「訓話集」

⑦『歌集 国士』(倉田勝彦編、私家版、一九八〇年二月一日初版、一九八二年二月三日改訂)楽譜なし「資料番号227」

収録歌…唱歌編 学徒吟／第一応援歌／第二応援歌／学生歌／昭和維新の歌／蒙古放浪の歌／桜花／男度胸／鳴々予科練／馬賊の歌／人を恋うる歌／鳴々紅の血は燃ゆる／無名の志士を弔ふの歌／田原坂／海行かば／一月一日／紀元節／天長節／明治節／漢詩編 生氣(正気)の歌／偶成／和歌編／松下村塾連／改訂追録満州エレジー／狼の歌／人を恋うる歌・追補／付録教育勅語／教育勅語口語文訳／五箇条の御誓文／軍人勅諭(抄)

⑧「歌集」(国士館大学詩吟部カ、一九八五年二月三日)楽譜なし「資料番号5398(欠落頁あり)」

収録歌…君が代／寮歌／学生歌／蒙古放浪歌／青年日本の歌／桜歌／狼の歌／突撃音頭／第一応援歌／第二応援歌／海行かば／館歌

⑨『国士館大学歌集(カセットテープ版)』(国士館大学同窓会 監修・発行、一九八五年)全楽譜付「資料番号291」

収録歌…国士館館歌／国士館学徒吟(寮歌)／学生歌／第一応援歌／第二応援歌／訓話集

*以降もCD版など形を変えて発行されるが、収録内容は同じ。

⑩『歌唱祭(第二回プログラム)』(楓門祭実行委員会・歌唱祭運営委員会発行、一九八五年二月三日)楽譜なし「資料番号10115」

収録歌…君が代(国歌)／明治節／寮歌／国士館大学剣道部部歌／鉢道ひとすじ／言道部部歌／青年大民団々歌／蒙古放浪歌／満州鏡泊学園校歌／母校を懐う歌／青年日本の歌／桜歌／学生歌／狼の唄／寄題国士館(漢詩)／突撃音頭／国士館第一応援歌／国士館第二応援歌／海行かば

⑪「国士館健児熱血歌唱祭(プログラム)」(国士館健児熱血歌唱祭実行委員会、一九八五年頃)楽譜なし「資料番号22623」

次第(収録歌)…吹奏楽部による演奏(軍艦行進曲)

／太鼓／開会の辞／国歌斉唱／趣旨説明／寮歌／剣道
部々歌／言動部々歌／空手道部々歌／空手道演武／国
士大恋歌／詩吟／合気道同好会歌／牀道の歌／男度胸
／桜花／青年日本の歌／学生歌／突撃音頭／第一第二
応援歌／館歌／閉会の辞／太鼓

⑫『柴田徳次郎先生御生誕百年記念・大歌唱祭 青年日

本の宴（プログラム）』（一九九〇年一月三日開催、
主催 柴田徳次郎先生御生誕百年記念大歌唱祭実行委
員会）楽譜なし「資料番号簿学生会部分」

収録歌・国歌／海行かば／国士館々歌／国士館寮歌／
若き支那浪人の歌／馬賊の歌／亡命者の歌／狼の歌／
流浪の旅／蒙古放浪歌／戦友／日本魂の歌／英霊の声
／憂国／いざ起て戦人よ／秋のピエロ／吟・草薨城輝
示人／春江花月夜／競馬／青年讃歌／一献歌／祖国式
千六百五拾年／無名の志士を弔うの歌／昭和維新・青
年日本の歌